

令和7年度

高知医療学院 理学療法学科

授業科目要綱

SYLLABUS

令和 7 年度 授業科目要綱

総目次

令和 7 年度 年間行事予定表

1 学年

授業科目・単位数一覧・担当講師一覧

分野別資料

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

2 学年

授業科目・単位数一覧・担当講師一覧

分野別資料

専門基礎分野

専門分野

3 学年

3 学年 授業科目・単位数一覧・担当講師一覧

分野別資料

専門基礎分野

専門分野

令和7年度 年間行事予定表

令和7年

		月	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
前 <									

令和8年

4月 1日 (火) 2, 3学年新学期開始
4月 4日 (金) 入学式・新入生オリエンテーション
4月 中旬 健康診断
5月 7日 (水) 3学年第Ⅰ期臨床実習開始
6月 27日 (金) 3学年第Ⅰ期臨床実習終了
7月 7日 (月) 3学年第Ⅱ期臨床実習開始
7月 下旬～1, 2学年前期単位認定試験
8月 1日 (金) 1, 2学年前期単位認定試験結果発表
8月 1日 (金) ～1・2学年前期再試験対策期間
8月 4日 (月) ～1・2学年夏休み
8月 12日 (火) ～1・2学年前期再試験
8月 29日 (金) 3学年第Ⅱ期臨床実習終了
9月 1日 (月) 1・2学年集中講義期間開始
3学年実習後評価・就職対策期間開始
9月 8日 (月) ～9月12日(金) 2学年臨床評価実習Ⅰ
9月 中旬 3学年就職説明会
9月 24日 (水) 推薦入学試験A
10月 1日 (水) 全学年後期授業開始
10月 25日 (土) 推薦入学試験B
11月 下旬 秋季レクリエーション
12月 20日 (土) 推薦入学試験C
12月 25日 (木) 1・2年生冬休み開始
12月 29日 (月) 3年生冬休み開始
1月 5日 (月) 3学年授業再開
1月 7日 (水) 1・2学年授業再開
1月 下旬～1, 2学年後期単位認定試験
1月 24日 (土) 一般入学試験A
2月 6日 (金) ～2月20日(金) 2学年臨床評価実習Ⅱ
2月 12日 (木) ～1学年後期単位認定試験結果発表
2月 13日 (金) ～1学年後期再試験対策期間
2月 14日 (土) 一般入学試験B
2月 17日 (火) ～1学年後期再試験
2月 21日 (土) ～2学年後期単位認定試験結果発表
2月 24日 (火) ～2学年後期再試験対策期間
2月 22日 (日) 第61回理学療法士国家試験(予測)
2月 26日 (木) ～2学年後期再試験
3月 6日 (金) セイリング(予定)
3月 7日 (土) 第46回卒業式(予定)
3月 9日 (月) 進級認定会議
3月 10日 (火) 進級者発表
3月 11日 (水) 1学年春休み開始
3月 12日 (木) 2学年春休み開始
3月 13日 (金) 一般入学試験C
3月 中旬 第47回実習指導者会議

1 学年 授業科目要綱

令和7年度 1学年・授業科目・単位数・担当者一覧

1
年
生

分野 指定規則単位		科 目		単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	他
						前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的思考の基礎	身 体 哲 学 概 論		1	15	1						合田 正人・宮本 省三	非常勤講師・他
		脳 科 学 概 論		1	15		1					宮本 省三	専任講師
		ス ポ ー ツ 科 学 概 論		1	15	1						八坂 一彦・他	専任講師・他
		医 学 用 語		1	15	1						小野 美紀	専任講師
		医 学 英 語		1	15		1					小野 美紀	専任講師
		情 報 科 学 演 習		1	30	1						大畑 剛・他	非常勤講師
	人間と生活	発 達 心 理 学		1	15		1					宮本 省三・他	専任講師・他
		運 動 心 理 学		1	15	1						宮本 省三・他	専任講師・他
		人 間 発 達 学		1	15	1						山口 一郎	非常勤講師
		日 常 生 活 動 作 概 論		1	15		1					小野 美紀・他	専任講師・他
		保 健 体 育		1	30	1						刈谷 三郎	非常勤講師
	社会の理解	社 会 福 祉 学		1	15	1						稲垣 佳代	非常勤講師
		コミュニケーション 概 論		1	15	1						小野 美紀・他	専任講師・他
		社 会 活 動 概 論		1	15	1						園田 義顕・他	専任講師・他
計	14			14	240	7	7	0	0	0	0		
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解 剖 学 I	1	12	30	1					高橋 弘	非常勤講師
			解 剖 学 II	1		30		1				高橋 弘	非常勤講師
			解 剖 学 III	1		30	1					田中 健二郎	非常勤講師
			解 剖 学 IV	1		30		1				田中 健二郎	非常勤講師
		生理学	生 理 学 I	1		30	1					有川 幹彦	非常勤講師
			生 理 学 II	1		30		1				村田 芳博	非常勤講師
			生 理 学 III	1		30			1				
			生 理 学 IV	1		30				1			
		運動学	運 動 学 I	1		30	1					園田 義顕	専任講師
			運 動 学 II	1		30		1				宮本 省三	専任講師
			運 動 学 III	1		30			1				
			運 動 学 IV	1		30			1				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病 理 学 概 論	1	14	30	1						大原 栄二・他	非常勤講師
		リハビリテーション内科学	1		30			1					
		リハビリテーション整形外科	1		30			1					
		リハビリテーション神経学	1		45			1					
		リハビリテーション栄養・薬理学	1		15			1					
		救命救急医学・リスク管理学	1		15				1				
		臨床データ診断学	1		15						1		
		精神医学	1		30				1				
		老年病学	1		30			1					
		運動発達学	1		15	1					宮本 省三	専任講師	
		解剖学演習	1		30	1					田淵 充勇	専任講師	
		生理学演習	1		30			1					
		解剖生理学演習	1		30	1					八坂 一彦・高橋 弘	専任講師・他	
		運動学演習	1		30			1					
	リハビリ医療福祉と チーム医療の理念	リハビリテーション概論	1	4	30	1					八坂 一彦	専任講師	
		リハビリテーション医学	1		30		1				小野 美紀	専任講師	
		社会保険論	1		15					1			
		チーム医療概論	1		15	1					八坂 一彦・他	専任講師・他	
計	30			30	825	8	7	6	7	0	2		

分野 指定規則単位		科 目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門分野	基礎理学療法学	理 学 療 法 評 価 概 論	1	6	30	1					田 淵 充 勇	専任講師			
		運 動 療 法 概 論	1		45	1					田 淵 充 勇	専任講師			
		物 理 療 法 概 論	1		30		1				八 坂 一 彦	専任講師			
		理学療法基礎セミナーⅠ	1		30			1							
		理学療法基礎セミナーⅡ	1		45					1					
		理学療法基礎セミナーⅢ	1		45					1					
		理 学 療 法 評 価 学 Ⅰ	1		6	30		1					田 淵 充 勇	専任講師	
	理 学 療 法 評 価 学 Ⅱ	1	45	1						園 田 義 顕	専任講師				
	理 学 療 法 評 価 学 Ⅲ	1	30			1					園 田 義 顕	専任講師			
	理 学 療 法 評 価 学 Ⅳ	1	30				1								
	理 学 療 法 評 価 学 Ⅴ	1	30					1							
	理 学 療 法 評 価 学 演 習	1	30				1								
	理 学 療 法 管 理 学	1	2	15							1				
	理 学 療 法 教 育 学	1		15						1					
	理学療法治療学	関節機能障害理学療法学	1	20	30			1							
		一 般 外 傷 理 学 療 法 学	1		30			1							
		ス ポ ー ツ 外 傷 理 学 療 法 学	1		30			1							
		障 害 者 ス ポ ー ツ 学	1		30	1						八 坂 一 彦・他	専任講師・他		
		末梢神経障害理学療法学	1		30				1						
		脊 髄 障 害 理 学 療 法 学	1		30				1						
		脳 障 害 理 学 療 法 学 Ⅰ	1		30			1							
		脳 障 害 理 学 療 法 学 Ⅱ	1		30				1						
		脳 障 害 理 学 療 法 学 Ⅲ	1		30				1						
		小 児 理 学 療 法 学	1		30				1						
		呼 吸 器 障 害 理 学 療 法 学	1		30			1							
		循 環 器 障 害 理 学 療 法 学	1		30			1							
		物 理 療 法 学	1		30			1							
		義 肢 学	1		30			1							
		装 具 学	1		30			1							
		日 常 生 活 動 作 学	1		30			1							
		運 動 療 法 技 術 学	1		30				1						
		認知神経リハビリテーション学	1		30				1						
		理学療法治療学セミナー	1		45						1				
		理 学 療 法 研 究 法	1		30							1			
	地域理学療法学	地域リハビリテーション学Ⅰ	1	3	30			1							
		地域リハビリテーション学Ⅱ	1		30			1							
		生 活 環 境 論	1		30				1						
臨床実習	臨 床 見 学 実 習	1	20	45	1						宮 本 省 三	専任講師			
	臨 床 評 価 実 習 Ⅰ	1		45			1								
	臨 床 評 価 実 習 Ⅱ	2		90				2							
	総 合 臨 床 実 習	15		675					15						
	地 域 見 学 実 習	1		45					1						
計	57		57	2055	1	7	11	16	15	7					
合計	101		101	3120	16	21	17	23	15	9					
3120時間						37単位		40単位		24単位					
						945時間		1230時間		945時間					
						101単位 3120時間									

基礎分野

目次

科学的思考の基礎

身体哲学概論	1-①
脳科学概論	1-②
スポーツ科学概論	1-③
医学用語	1-④
医学英語	1-⑤
情報科学演習	1-⑥

人間と生活

発達心理学	1-⑦
運動心理学	1-⑧
人間発達学	1-⑨
日常生活動作概論	1-⑩
保健体育	1-⑪

社会の理解

社会福祉学	1-⑫
コミュニケーション概論	1-⑬
社会活動概論	1-⑭

科目名	身体哲学概論	学年・学期	1 学年・通 年
担当講師	合田 正人・宮本 省三	単位・時間数	1 単位・1 5 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
人間の身体についての哲学、心理学、認知心理学、神経科学、脳科学、芸術とリハビリテーション医療の関連性を探求する。それによって患者の「生きる身体」の意味性を理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 心身問題について理解する 2. レヴィナスの心身論について理解する 3. メルロポンティの心身論について理解する 4. ベルクソンの心身論について理解する			
[授業計画]			
回	内容		
1	心身問題		
2	脳をどう捉えるか		
3	レヴィナス、メルロポンティの心身論①		
4	レヴィナス、メルロポンティの心身論②		
5	ベルクソンの心身問題①		
6	ベルクソンの心身問題②		
7	ベルクソンの心身問題③		
8	心身問題について(課題作成)		
[教科書]			
人間の運動学 協同医書出版			
[参考図書]			
リハビリテーション身体論 青土社 脳のなかの身体 講談社新書			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席 10%、課題内容 90%の合計点とする			

科目名	脳 科 学 概 論	学年・学期	1 学 年 ・ 後 期																		
担当講師	宮 本 省 三	単位・時間数	1 単 位 ・ 1 5 時 間																		
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。																				
[授業内容(概要)]																					
脳の構造や機能を理解し、脳科学の基本について学習する。																					
[授業の到達目標]																					
1. 脳の構造について理解する 2. 脳と運動について理解する 3. 脳と感覚について理解する 4. 脳損傷に伴う症状について理解する																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>脳の構造（大脳、小脳、脳幹）①</td></tr><tr><td>2</td><td>脳の構造（大脳、小脳、脳幹）②</td></tr><tr><td>3</td><td>脳の構造（ブロードマン、ペンフィールド）</td></tr><tr><td>4</td><td>脳と運動①</td></tr><tr><td>5</td><td>脳と運動②</td></tr><tr><td>6</td><td>脳と感覚①</td></tr><tr><td>7</td><td>脳と感覚②</td></tr><tr><td>8</td><td>テスト</td></tr></table>				回	内容	1	脳の構造（大脳、小脳、脳幹）①	2	脳の構造（大脳、小脳、脳幹）②	3	脳の構造（ブロードマン、ペンフィールド）	4	脳と運動①	5	脳と運動②	6	脳と感覚①	7	脳と感覚②	8	テスト
回	内容																				
1	脳の構造（大脳、小脳、脳幹）①																				
2	脳の構造（大脳、小脳、脳幹）②																				
3	脳の構造（ブロードマン、ペンフィールド）																				
4	脳と運動①																				
5	脳と運動②																				
6	脳と感覚①																				
7	脳と感覚②																				
8	テスト																				
[教科書]																					
人間の運動学 協同医書出版																					
[参考図書]																					
[授業方法]																					
講義																					
[成績評価方法]																					
出席(10%)とテスト(90%)の合計点とする																					

科目名	スポーツ科学概論	学年・学期	1 学年・前 期																		
担当講師	八坂 一彦・他	単位・時間数	1 単位・1 5 時間																		
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。																				
[授業内容(概要)]																					
スポーツに関する現象や人間の振る舞いを研究する分野をスポーツ科学といい、スポーツ科学の体系には哲学、社会学、心理学、コーチング論など様々な学問領域がある。本講義では、身体運動を生み出す生体のしくみを学ぶとともに、スポーツ科学の各学問領域の概要について理解することを目指すとする。また、現場での実践を通じて、スポーツ領域における理学療法士の役割について理解する。																					
[授業の到達目標]																					
1. 生体のしくみと身体運動について理解する 2. 運動技能と運動能力の向上のためのスポーツ科学の役割について理解する 3. スポーツ領域における理学療法士の役割について理解する																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>トレーニングの目的、必要な要素・内容</td></tr><tr><td>2</td><td>ランナーのためのコンディショニング</td></tr><tr><td>3</td><td>マラソントレーニングの実際</td></tr><tr><td>4</td><td>理学療法士の役割～ヨーロッパでのスポーツとの関わり～</td></tr><tr><td>5</td><td>理学療法士の役割～各種トレーナー報告～</td></tr><tr><td>6</td><td>アスリートパフォーマンス向上について(トレーニングの実際)</td></tr><tr><td>7</td><td>ランニング障害</td></tr><tr><td>8</td><td>全体のまとめ</td></tr></table>				回	内容	1	トレーニングの目的、必要な要素・内容	2	ランナーのためのコンディショニング	3	マラソントレーニングの実際	4	理学療法士の役割～ヨーロッパでのスポーツとの関わり～	5	理学療法士の役割～各種トレーナー報告～	6	アスリートパフォーマンス向上について(トレーニングの実際)	7	ランニング障害	8	全体のまとめ
回	内容																				
1	トレーニングの目的、必要な要素・内容																				
2	ランナーのためのコンディショニング																				
3	マラソントレーニングの実際																				
4	理学療法士の役割～ヨーロッパでのスポーツとの関わり～																				
5	理学療法士の役割～各種トレーナー報告～																				
6	アスリートパフォーマンス向上について(トレーニングの実際)																				
7	ランニング障害																				
8	全体のまとめ																				
[教科書]																					
※関係プリント資料を随時配布																					
[参考図書]																					
教養としてのスポーツ科学 早稲田大学スポーツ科学学術院 健康・スポーツ科学の基礎知識 第3版 道和書院																					
[授業方法]																					
1. 講義 2. 演習・実習																					
[成績評価方法]																					
出席状況(5%)、授業、演習・実習態度(5%)、レポート(90%)の合計点とする																					

科目名	医 学 用 語	学年・学期	1 学年・前 期																		
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1 単位・15 時間																		
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。																				
[授業内容(概要)]																					
臨床現場で医療スタッフの一員として必要な人体に関する医学用語やリハビリテーションに関する基本的な医学用語について学習する。																					
[授業の到達目標]																					
1. 人体に関する医学用語を理解する 2. リハビリテーションに関する医学用語を理解する 3. 理解した医学用語を活用し説明できる。																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>身体各部の名称①</td></tr><tr><td>2</td><td>身体各部の名称②</td></tr><tr><td>3</td><td>位置関係と方向①</td></tr><tr><td>4</td><td>位置関係と方向②</td></tr><tr><td>5</td><td>骨格系の名称①</td></tr><tr><td>6</td><td>骨格系の名称②</td></tr><tr><td>7</td><td>リハビリテーション医学用語</td></tr><tr><td>8</td><td>テスト</td></tr></table>				回	内容	1	身体各部の名称①	2	身体各部の名称②	3	位置関係と方向①	4	位置関係と方向②	5	骨格系の名称①	6	骨格系の名称②	7	リハビリテーション医学用語	8	テスト
回	内容																				
1	身体各部の名称①																				
2	身体各部の名称②																				
3	位置関係と方向①																				
4	位置関係と方向②																				
5	骨格系の名称①																				
6	骨格系の名称②																				
7	リハビリテーション医学用語																				
8	テスト																				
[教科書]																					
講義に必要なプリント等の資料配布																					
[参考図書]																					
理学療法学事典 医学書院 ポケット医学英和辞典 医学書院 知っておきたい医療英単語 医学書院																					
[授業方法]																					
講義																					
[成績評価方法]																					
小テスト 30%(実施回数の平均)、単位認定テスト 70%の合計点とする																					

科目名	医 学 英 語	学年・学期	1 学年 ・ 後 期																		
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1 単位 ・ 1 5 時間																		
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。																				
[授業内容(概要)]																					
医学的な基本分野およびリハビリテーション医学用語に関する専門医学英語の理解を目的とする。																					
[授業の到達目標]																					
1．骨・関節・筋・神経の基本的知識の理解と英語表記を理解する																					
2．疾患・障害に関する基本的知識の理解と英語表記を理解する																					
3．リハビリテーション医学用語の英語表記を理解する																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>骨の基本と英語表記</td></tr><tr><td>2</td><td>関節と関節運動の基本と英語表記①</td></tr><tr><td>3</td><td>関節と関節運動の基本と英語表記②</td></tr><tr><td>4</td><td>筋肉名と筋作用の基本と英語表記</td></tr><tr><td>5</td><td>神経系の基本と英語表記</td></tr><tr><td>6</td><td>疾患・障害の基本と英語表記</td></tr><tr><td>7</td><td>リハビリテーション医学用語の英語表記</td></tr><tr><td>8</td><td>テスト</td></tr></table>				回	内容	1	骨の基本と英語表記	2	関節と関節運動の基本と英語表記①	3	関節と関節運動の基本と英語表記②	4	筋肉名と筋作用の基本と英語表記	5	神経系の基本と英語表記	6	疾患・障害の基本と英語表記	7	リハビリテーション医学用語の英語表記	8	テスト
回	内容																				
1	骨の基本と英語表記																				
2	関節と関節運動の基本と英語表記①																				
3	関節と関節運動の基本と英語表記②																				
4	筋肉名と筋作用の基本と英語表記																				
5	神経系の基本と英語表記																				
6	疾患・障害の基本と英語表記																				
7	リハビリテーション医学用語の英語表記																				
8	テスト																				
[教科書]																					
資料配布																					
[参考図書]																					
リハビリテーションビジュアルブック 学研メディカル秀潤社																					
カラー人体解剖学 西村書店																					
理学療法学辞典 医学書院																					
ポケット医学英和辞典 医学書院																					
ナースに必要な日常英語表現と略語 医学書院																					
リハビリテーションの基礎英語 メジカルビュー社																					
[授業方法]																					
講義																					
[成績評価方法]																					
小テスト 30%(実施回数の平均)、単位認定テスト 70%の合計点とする																					

科目名	情報科学演習	学年・学期	1 学年・前 期
担当講師	大 畑 剛・他	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
理学療法士業務の多くにパソコンを取り入れたものが増えてきており、今後は電子カルテの導入や文献検索・学会発表等ネットワーク知識やマルチメディア関連の知識も重要となる。			
この講座では趣味から業務利用までを視野に入れたパソコン操作の習熟、および研究発表の方法論を習得することとする。			
[授業の到達目標]			
1. パソコンの基本的な操作法(W i n d o w s 1 1)を修得する			
2. 文書作成 (W o r d)、表計算ソフト入門 (E x c e l)、インターネットでの情報活用 (I E)・メールの活用基、本プレゼンテーション作成入門 (P o w e r P o i n t) が活用できる。			
3. グループワークを通じたテーマ決定・データ収集・データ処理・スライド作成ができる。			
4. グループ発表を経験する。			
5. パソコンが活用できる。			
[授業計画]			
回	内容		
1	パソコンの基本的な操作法(W i n d o w s 1 1)		
2	文書作成 (W o r d) 文字入力と編集		
3	表計算ソフト入門 (E x c e l)		
4	統計入門講座		
5	表計算ソフトの活用 (統計処理)		
6	インターネットでの情報活用 (I E)・メールの活用		
7	プレゼンテーション作成入門 (P o w e r P o i n t)		
8	統計処理の実際		
9	プレゼンテーション作成演習 I (テーマ決定		
10	プレゼンテーション作成演習 II (データ採取		
11	プレゼンテーション作成演習 III (データ処理)		
12	プレゼンテーション作成演習 IV (スライド作成)		
13	プレゼンテーション発表 I		
14	プレゼンテーション発表 II		
15	理学療法業務でのパソコン活用事例		
[教科書]			
プリントなど資料配布			
[参考図書]			
パソコン関連書籍			
[授業方法]			
グループワーク形式の演習、実習を中心に必要に応じて講義を行う。			
[成績評価方法]			
出席状況(20%)、グループワークならびにグループプレゼンテーション発表(80%)の合計とする			

科目名	発 達 心 理 学	学年・学期	1 学年 ・ 後 期
担当講師	宮本 省三 ・ 他	単位 ・ 時間数	1 単位 ・ 1 5 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
子どもの認知発達について理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 運動発達と認知発達について理解する			
2. 認知過程の発達について理解する			
3. ピアジェの発達理論について理解する			
4. ヴィゴツキーの発達理論について理解する			
5. 発達障害について理解する			
[授業計画]			
回	内容		
1	ヴィゴツキー理論の特徴と研究の始まりにあること		
2	障害者に対する姿勢と障害児(者)教育論		
3	心理システムとして人間を見る視点、具体性の心理学		
4	人間心理の文化的歴史的接近とヴィゴツキー、ルリヤの比較文化研究		
5	思考と言語のからくり		
6	情動と意思の心理学		
7	発達障害の病態と理学療法士の関わり		
8	発達障害について(課題作成)		
[教科書]			
人間の運動学 協同医書出版			
ヴィゴツキー小事典 新曜社			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席状況 (20%)、課題レポート (80%) の合計とする			

科目名	運 動 心 理 学	学年・学期	1 学年・前 期																		
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1 単位・15 時間																		
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。																				
[授業内容(概要)]																					
リハビリテーションの現場で運動指導に携る理学療法士は、狭義の運動学（Kinesiology）やバイオメカニクスのような自然科学的で客観的な運動理論だけの習得では不十分である。 ここでは、運動を教える主体と運動を覚える主体との相互作用における運動現象や感性といった主観的な身体論に迫る。具体的には、近年リハビリテーション領域でも注目されているアフォーダンス、モルフォロジー、オートポイエシス、現象学、運動イメージ、メンタルプラクティス、芸術などについて取り上げ、それらの理論の理学療法への接点を模索する場とする。																					
[授業の到達目標]																					
1. 運動を教える主体と運動を覚える主体との相互作用について理解する 2. 身体と運動について理解する 3. 知覚・感覚・認知について理解する																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>運動の基礎～教える、覚える～</td></tr><tr><td>2</td><td>運動から感情を読み取る</td></tr><tr><td>3</td><td>身体の骨格の特徴</td></tr><tr><td>4</td><td>脳機能と自閉症①</td></tr><tr><td>5</td><td>脳機能と自閉症②</td></tr><tr><td>6</td><td>運動学習</td></tr><tr><td>7</td><td>知覚・感覚・認知</td></tr><tr><td>8</td><td>アフォーダンスについて(課題作成)</td></tr></table>				回	内容	1	運動の基礎～教える、覚える～	2	運動から感情を読み取る	3	身体の骨格の特徴	4	脳機能と自閉症①	5	脳機能と自閉症②	6	運動学習	7	知覚・感覚・認知	8	アフォーダンスについて(課題作成)
回	内容																				
1	運動の基礎～教える、覚える～																				
2	運動から感情を読み取る																				
3	身体の骨格の特徴																				
4	脳機能と自閉症①																				
5	脳機能と自閉症②																				
6	運動学習																				
7	知覚・感覚・認知																				
8	アフォーダンスについて(課題作成)																				
[教科書]																					
教科書指定なし																					
[参考図書]																					
『運動制御と運動学習』宮本省三（選）（協同医書出版社）																					
[授業方法]																					
講義 演習 スライド																					
[成績評価方法]																					
出席状況(20%)、課題レポート(80%)の合計とする																					

科目名	人 間 発 達 学	学年・学期	1 学年・通年																		
担当講師	山 口 一 郎	単位・時間数	1 単位・1 5 時間																		
[授業内容(概要)]																					
人間が形態や機能において変化し続ける変化を、一般的に発達という。 特に、人間の身体・運動・精神面の機能的かつ構造的な発達を理解する事は、発達診断や障害構造の理解に不可欠となる。 人間の発達過程について、中枢神経系の発達過程、その表れである姿勢や運動技能、精神機能の獲得過程を理解する。																					
[授業の到達目標]																					
1.心身の発達について理解する 2.認知機能(感覚・知覚・認識)の発達について理解する 3.他者との区別や関わりについて理解する																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>現象学から学ぶ心身の発達①</td></tr><tr><td>2</td><td>現象学から学ぶ心身の発達②</td></tr><tr><td>3</td><td>感覚と知覚は何が違うのか①</td></tr><tr><td>4</td><td>感覚と知覚は何が違うのか②</td></tr><tr><td>5</td><td>現在の成り立ちとは</td></tr><tr><td>6</td><td>発達と現象学①</td></tr><tr><td>7</td><td>発達と現象学①</td></tr><tr><td>8</td><td>まとめ</td></tr></table>				回	内容	1	現象学から学ぶ心身の発達①	2	現象学から学ぶ心身の発達②	3	感覚と知覚は何が違うのか①	4	感覚と知覚は何が違うのか②	5	現在の成り立ちとは	6	発達と現象学①	7	発達と現象学①	8	まとめ
回	内容																				
1	現象学から学ぶ心身の発達①																				
2	現象学から学ぶ心身の発達②																				
3	感覚と知覚は何が違うのか①																				
4	感覚と知覚は何が違うのか②																				
5	現在の成り立ちとは																				
6	発達と現象学①																				
7	発達と現象学①																				
8	まとめ																				
[教科書]																					
『現象学ことはじめ 新装改訂版 山口一郎』																					
[参考図書]																					
[授業方法]																					
講義																					
[成績評価方法]																					
出席状況(10%)、課題レポート(90%)の合計とする																					

科目名	日常生活動作概論	学年・学期	1 学年・後 期																		
担当講師	小野 美紀・他	単位・時間数	1 単位・15 時間																		
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。																				
[授業内容(概要)]																					
日常生活動作（ADL）の基本的事項およびADLと障害の関係について理解する。 起居・移動動作について理解し、姿勢管理及び動作介助技術について理解する。																					
[授業の到達目標]																					
1. ADL の概念、範囲および ADL と障害について理解する 2. ADL 各動作について理解する 3. 姿勢管理および姿勢のサポートについて理解し、実践できる 4. ノーリフティングの考え方と実際について理解し、実践できる																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>ADL の概念、範囲および ADL と障害、ADL 各動作について理解する①</td></tr><tr><td>2</td><td>ADL の概念、範囲および ADL と障害、ADL 各動作について理解する②</td></tr><tr><td>3</td><td>姿勢管理</td></tr><tr><td>4</td><td>ポジショニングとシーティング①</td></tr><tr><td>5</td><td>ポジショニングとシーティング②</td></tr><tr><td>6</td><td>ノーリフティングの考え方</td></tr><tr><td>7</td><td>ノーリフティングの実際</td></tr><tr><td>8</td><td>姿勢と動きのサポートについて(課題作成)</td></tr></table>				回	内容	1	ADL の概念、範囲および ADL と障害、ADL 各動作について理解する①	2	ADL の概念、範囲および ADL と障害、ADL 各動作について理解する②	3	姿勢管理	4	ポジショニングとシーティング①	5	ポジショニングとシーティング②	6	ノーリフティングの考え方	7	ノーリフティングの実際	8	姿勢と動きのサポートについて(課題作成)
回	内容																				
1	ADL の概念、範囲および ADL と障害、ADL 各動作について理解する①																				
2	ADL の概念、範囲および ADL と障害、ADL 各動作について理解する②																				
3	姿勢管理																				
4	ポジショニングとシーティング①																				
5	ポジショニングとシーティング②																				
6	ノーリフティングの考え方																				
7	ノーリフティングの実際																				
8	姿勢と動きのサポートについて(課題作成)																				
[教科書]																					
日常生活動作学・生活環境学 新版 姿勢と動作		医学書院 メヂカルフレンド社																			
[参考図書]																					
[授業方法]																					
講義		実習																			
[成績評価方法]																					
講義内確認テスト 30%、実習態度 30%、課題レポート 40%の合計点とする																					

科目名	保 健 体 育	学年・学期	1 学年・通年
担当講師	刈谷 三郎	単位・時間数	1 単位・30 時間
[授業内容(概要)]			
生涯にわたってスポーツが楽しめるように、ゲームを中心にスポーツ自体の楽しさを味わい、仲間との協力・連携を深め、スポーツを楽しむことのできる能力や態度を身につける事を目標とする。 具体的には、攻防分離型の球技（ソフトボール）、攻防一体型の球技（フットサル）を行う。授業の前半はグループ別に練習を行い、後半は他グループとのゲームを行う。 グループでの活動は、各自の技能やチームの力量を向上できるよう、リーダーを中心に活動を行い、個人及びグループの技能を向上させ、全員がゲームを楽しめるようにする。			
[授業の到達目標]			
1. 各ゲームを楽しむことのできる基礎的技能の習得 2. スポーツを楽しく行うためのマナーと態度の育成 3. 継続してスポーツを実践できる知識の習得			
[授業計画]			
回	内容		
1	オリエンテーション		
2	実技〈ソフトボール〉		
3	実技〈ソフトボール〉		
4	DVD 視聴・レポート作成		
5	実技〈ソフトボール〉		
6	実技〈ソフトボール〉		
7	実技〈ソフトボール〉		
8	実技〈フットサル〉		
9	実技〈フットサル〉		
10	実技〈フットサル〉		
11	実技〈フットサル〉		
12	DVD 視聴・レポート作成		
13	実技〈フットサル〉		
14	実技〈フットサル〉		
15	実技テスト		
[教科書]			
[参考図書]			
[授業方法]			
晴天時はグラウンド、雨天時は室内（スポーツ科学講義、DVD 学習等） ※ タオル、着替え等は各自で準備しておいてください。			
[成績評価方法]			
スポーツ技能の向上 30%、出席及びチームへの貢献 50%、課題レポート 20%の合計 100 点とする。			

科目名	社 会 福 祉 学	学年・学期	1 学年・前期
担当講師	稲垣 佳代	単位・時間数	1 単位・15 時間
[授業内容(概要)]			
社会の仕組みと人々の暮らしの関連について学び、暮らしの危機に対応する社会福祉について講義する。具体的には社会福祉の概念や理念、社会福祉の国内外の歴史、社会福祉にかかわる法律・制度・施策、社会福祉援助活動の基本的枠組みや具体的展開について講義する。このことを通して、実践科学としての社会福祉について理解を深める。			
[授業の到達目標]			
1. 社会の仕組みと人々の暮らしの関連について理解できる。 2. 社会福祉の概念、法制、方法、動向などの基礎知識を習得できる。 3. 具体の事例から、社会福祉の対象者が直面する「暮らしづらさ」とそれを支える社会福祉援助活動について考察できる。			
[授業計画]			
回	内容		
1	社会の仕組みと人びとの暮らし： 人びとの暮らしとそれを支える社会の仕組みについて学ぶ		
2	社会福祉の理念と概念： 社会福祉とは何か、社会福祉が実践で培ってきた理念について学ぶ		
3	社会福祉の歴史： イギリスと日本の社会福祉の歴史を学ぶ		
4	社会福祉にかかわる法律・制度・施策： 日本における高齢者福祉・障害者福祉に係る法律・制度・施策を中心に学ぶ		
5	社会福祉援助活動の基本的枠組み： 社会福祉援助活動の目的、対象、方法などの基本的枠組みについて学ぶ		
6	社会福祉援助活動の展開： 人びとの暮らしに生じる危機とそれに対する社会福祉援助活動の具体的展開について学ぶ		
7	授業のまとめ		
8	試験		
[教科書]			
西村 昇ほか：七訂版社会福祉概論－その基礎学習のために，中央法規出版， 2022			
[参考図書]			
古川 孝順：社会福祉学原論（第2版），誠信書房，2005 久保 紘章ほか：ソーシャルワークの実践モデルー心理社会的アプローチからナラティブまで，川島書店，2005			
[授業方法]			
・講義を中心に展開する。			
[成績評価方法]			
出席状況（40%）、テスト（60%）の合計点とする。			

科目名	コミュニケーション概論	学年・学期	1 学年・前 期
担当講師	小野 美紀・他	単位・時間数	1 単位・1 5 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築し、医療場面に必要なコミュニケーションの知識・技術・能力を習得することを目的としている。特に、患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、責任を持って医療を実践するための態度・倫理観を有し、行動できるよう、模擬患者参加によるロールプレイを活用する。			
[授業の到達目標]			
1. コミュニケーションとは何かを理解する			
2. 他者理解（傾聴・共感）について理解する			
3. 医療面接の目的・手順・注意点・質問法について理解する			
4. 模擬患者とのロールプレイを通じて医療面接演習を体験し、必要なコミュニケーション法について理解する			
[授業計画]			
回	内容		
1	コミュニケーションとは		
2	自分を知る／他者理解		
3	他者理解（傾聴・共感）		
4	医療面接の目的・手順・注意点・質問法		
5	【医療面接演習】模擬患者とのロールプレイ（Ⅰ）		
6	【医療面接演習】模擬患者とのロールプレイ（Ⅱ）		
7	【医療面接演習】グループワーク		
8	全体のまとめ		
[教科書]			
プリント等資料を随時配布資料配布			
[参考図書]			
あなたの患者になりたい 篠原出版新書			
医者が心をひらくとき【上】【下】 医学書院			
医療面接技法 医学書院			
コミュニケーションスキルトレーニング 医学書院			
患者の声を医療に行かす 医学書院			
戦略としての医療面接 医学書院			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
出席および演習 30%、模擬患者演習 20%、課題 50%の合計点とする			

科目名	社 会 活 動 概 論	学年・学期	1 学年・前 期																		
担当講師	園田 義顕・他	単位・時間数	1 単位・1 5 時間																		
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。																				
[授業内容(概要)]																					
ボランティア活動、地域貢献などの社会活動を通じてその理念、役割を理解し、医療・福祉と社会との関係性やそれらを取り巻く多様な課題や地域社会に貢献する必要性について学ぶ。																					
[授業の到達目標]																					
1.ボランティア活動や地域貢献などの社会活動を通じてその理念、役割を理解し説明できる。																					
2.医療・福祉と社会との関係性を理解し説明できる。																					
3.医療・福祉を取り巻く多様な課題を理解し、地域社会に貢献する必要性を体験的に理解する。																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>社会活動とはなにか</td></tr><tr><td>2</td><td>ボランティアと地域貢献</td></tr><tr><td>3</td><td>環境・災害とボランティア</td></tr><tr><td>4</td><td>ボランティアの課題および内容の設定</td></tr><tr><td>5</td><td>医療・福祉を取り巻く課題</td></tr><tr><td>6</td><td>地域連携におけるボランティア</td></tr><tr><td>7</td><td>国際社会とボランティア</td></tr><tr><td>8</td><td>課題レポート</td></tr></table>				回	内容	1	社会活動とはなにか	2	ボランティアと地域貢献	3	環境・災害とボランティア	4	ボランティアの課題および内容の設定	5	医療・福祉を取り巻く課題	6	地域連携におけるボランティア	7	国際社会とボランティア	8	課題レポート
回	内容																				
1	社会活動とはなにか																				
2	ボランティアと地域貢献																				
3	環境・災害とボランティア																				
4	ボランティアの課題および内容の設定																				
5	医療・福祉を取り巻く課題																				
6	地域連携におけるボランティア																				
7	国際社会とボランティア																				
8	課題レポート																				
[教科書]																					
プリント等資料を随時配布																					
[参考図書]																					
[授業方法]																					
講義 実習																					
[成績評価方法]																					
出席状況 20%、課題レポート 80%の合計とする																					

専門基礎分野

目次

人体の構造と機能及び心身の発達

〈解剖学〉

解剖学Ⅰ 1－⑮

解剖学Ⅱ 1－⑯

解剖学Ⅲ 1－⑰

解剖学Ⅳ 1－⑱

〈生理学〉

生理学Ⅰ 1－⑲

生理学Ⅱ 1－⑳

〈運動学〉

運動学Ⅰ 1－㉑

運動学Ⅱ 1－㉒

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

病理学概論 1－㉓

運動発達学 1－㉔

解剖学演習 1－㉕

解剖生理学演習 1－㉖

保健医療福祉とリハビリテーションの理念

リハビリテーション概論 1－㉗

リハビリテーション医学 1－㉘

チーム医療概論 1－㉙

科目名	解 剖 学 I	学年・学期	1 学年・前 期
担当講師	高橋 弘	単位・時間数	1 単位・30 時間
[授業内容(概要)]			
解剖学は生物の構造を追究する学問であり、解剖学 I では人体の骨格保持・動きを行うための骨および筋がどのような形態をしているか学習する。これにより、人体の動く仕組みを理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 個々の骨の構造的特徴を説明できる 2. 筋肉の起始・停止を理解し、体の動きとの関係を説明できる 3. 関節および靱帯の構造を理解し、体の動きとの関係を説明できる			
[授業計画]			
回	内容		
1	解剖学総論		
2	骨 総論		
3	骨 脊柱		
4	骨 胸部		
5	骨 上肢		
6	骨 下肢・骨盤		
7	骨 頭蓋		
8	骨 頭蓋		
9	筋 総論		
10	筋 頭部・頸部・胸部		
11	筋 腹部・背部		
12	筋 上肢		
13	筋 下肢		
14	骨・筋のまとめ		
15	試験		
[教科書]			
カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H.マティーニ著 西村書店 あたらしい人体解剖学アトラス P. タンク著 MEDSi			
[参考図書]			
解剖学講義 伊藤 隆 著 南山堂 人体系統解剖学 吉川 文雄 著 南山堂			
[授業方法]			
講義（関係の標本を用いて授業を行う）			
[成績評価方法]			
出席状況（5%）、単位認定テスト（95%）の合計 100 点とする			

科目名	解 剖 学 II	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	高橋 弘	単位・時間数	1 単位・30 時間
[授業内容(概要)]			
解剖学Ⅱでは、体内で情報を伝えるシステムである神経系および内分泌系の基本的な構造について学習する。これにより、生体内での情報のやり取りの仕組みを理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 脳・脊髄の構造と役割について説明できる 2. 脳神経・脊髄神経の分布および伝導路について説明できる 3. 内分泌器官の構造について説明できる			
[授業計画]			
回	内容		
1	神経	神経系の概観	
2	神経	脊髄の外観と断面	
3	神経	脊髄神経の分布	
4	神経	脳の区分、脳の保護機構	
5	神経	大脳（機能局在、大脳辺縁系、基底核）	
6	神経	間脳、橋、延髄、小脳	
7	神経	脳神経	
8	神経	伝導路（感覚路）	
9	神経	伝導路（運動路）	
10	神経	感覚器	
11	神経	自律神経系	
12	内分泌	視床下部、下垂体	
13	内分泌	甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓	
14	まとめ		
15	試験		
[教科書]			
カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H.マティニーニ著 西村書店 あたらしい人体解剖学アトラス P. タンク著 MEDSi			
[参考図書]			
解剖学講義 伊藤 隆 著 南山堂 人体系統解剖学 吉川 文雄 著 南山堂			
[授業方法]			
講義 スライド			
[成績評価方法]			
出席状況（5%）、単位認定テスト（95%）の合計 100 点とする			

科目名	解 剖 学 Ⅲ	学年・学期	1 学年・前 期
担当講師	田中 健二郎	単位・時間数	1 単位・30 時間
[授業内容(概要)]			
人体を構成する組織とその構成要素である細胞の微細構造について、イラストや顕微鏡像を示しながら解説する。また、ヒトの胚が分化し器官が形成されていく過程について講義する。			
[授業の到達目標]			
1. 細胞の基本的な構造について理解している 2. 各組織についてそれぞれの特徴を知り、識別することができる 3. ヒトの発生の過程を概説することができる			
[授業計画]			
回	内容		
1	細胞	細胞の構造	
2	細胞	蛋白質と核酸	
3	組織	上皮組織	
4	組織	筋組織	
5	組織	神経組織	
6	組織	結合組織（線維，基質，細胞）	
7	組織	結合組織（分類）	
8	組織	骨・軟骨	
9	組織	血液	
10	組織	リンパ組織	
11	発生	配偶子形成と受精・着床	
12	発生	胚の分化と器官形成	
13	発生	胎児と胎盤	
14	発生	発生の異常	
15	試験		
[教科書]			
カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H.マティーニ著 西村書店 あたらしい人体解剖学アトラス P. タンク著 MEDSi			
[参考図書]			
解剖学講義 伊藤 隆 著 南山堂 人体系統解剖学 吉川 文雄 著 南山堂			
[授業方法]			
講義 スライド			
[成績評価方法]			
出席状況（5%）、筆記試験（95%）の合計とする			

科目名	解 剖 学Ⅳ	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	田中 健二郎	単位・時間数	1 単位・30 時間
[授業内容(概要)]			
消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系および生殖器系の各器官系を構成する器官の構造について講義する。また各器官の役割についても、解剖学的視点から解説する。			
[授業の到達目標]			
1. 各器官系について概説することができる 2. 各器官の構造について理解している 3. 各器官の構造と機能の結びつきを認識できている			
[授業計画]			
回	内容		
1	消化器系	口腔, 咽頭, 食道, 胃	
2	消化器系	小腸, 大腸	
3	消化器系	肝臓, 胆路, 膵臓	
4	消化器系	歯, 舌, 唾液腺	
5	消化器系	まとめ	
6	呼吸・循環器系	気道	
7	呼吸・循環器系	肺, 心臓	
8	呼吸・循環器系	血管	
9	呼吸・循環器系	まとめ	
10	泌尿・生殖器系	腎臓	
11	泌尿・生殖器系	尿管, 膀胱, 外性器	
12	泌尿・生殖器系	性腺, 生殖路, 付属腺	
13	泌尿・生殖器系	まとめ	
14	その他の器官		
15	試験		
[教科書]			
カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H.マティーニ著 西村書店 あたらしい人体解剖学アトラス P. タンク著 MEDSi			
[参考図書]			
解剖学講義 伊藤 隆 著 南山堂 人体系統解剖学 吉川 文雄 著 南山堂			
[授業方法]			
講義 スライド			
[成績評価方法]			
出席状況（5%）、筆記試験（95%）の合計とする			

科目名	生 理 学 I	学年・学期	1 学年・前期
担当講師	有川 幹彦	単位・時間数	1 単位・30 時間
[授業内容(概要)] 我々の身体は、生命を維持するために環境の変化に対して常に適応することが求められる。この要求を満たすため、身体には様々な調節機構が備わっており、これが破綻した状態がいわゆる病気である。生理学では、人体の正常な生理機能を学習することで環境適応の仕組みを理解し、将来的には主要な疾患の病態生理を概説できるようになることを目指す。そのためにまず、生理学 I では、主に化学・生物学の知識を整理し定着させる。			
[授業の到達目標] 1. 人体を構成する細胞とその環境、および細胞を構成する分子について説明できる。 2. 三大栄養素の代謝について説明できる。 3. 神経における興奮の伝導と伝達のメカニズムを説明できる。 4. 骨格筋の収縮のメカニズムを、心筋や平滑筋と比較して説明できる。			
[授業計画]			
回	内容		
1	1 生理学の基礎	1.1	生理学とは
2		1.2	生体で機能する分子
3		1.3	細胞の構造と機能
4		1.4	細胞外液
5	2 栄養と代謝	2.1	ATP の合成過程
6		2.2	中間代謝
7	3 神経の基本機能	3.1	静止膜電位の形成
8		3.2	興奮の発生と伝導
9		3.3	興奮の伝達
10	4 筋肉の基本機能	4.1	興奮収縮連関 (1)
11		4.2	興奮収縮連関 (2)
12		4.3	収縮の仕方とエネルギー
13		4.4	心筋と平滑筋
14	5 まとめ		
15	試験		
[教科書] 生友聖子・志村まゆら・鈴木敦子・玉木 徹：リハビリテーション基礎講座、生理学・第 1 版、医歯薬出版、2024 年			
[参考図書] 三井和浩：人体の構造と機能(2)：臨床生化学・第 7 版、メディカ出版、2024 年 貴邑富久子：シンプル生理学・改定第 8 版、南江堂、2021 年			
[授業方法] 講義			
[成績評価方法] 確認問題による講義内容の理解度 (30%) と単位認定試験 (70%) の合計とする。			

科目名	生 理 学 II	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	村田 芳博	単位数	1 単位・30 時間
[授業内容(概要)]			
生理学 I に引き続き、人体の正常な働きとその仕組みを学修する。			
1. 生理学 I の学修を基に、人体の正常な運動機能（運動生理）の基本事項を学修する。			
2. 正常な運動機能が破綻した状態（障害・疾患）や理学療法を理解する基礎を養う。			
[授業の到達目標]			
1. 学生が、人体の正常な運動機能とその仕組みを、他の学生に分かりやすく説明できる。			
2. 学生が、障害・疾患の成り立ちや理学療法的一端を、生理学の知識を使って理解できる。			
[授業計画]			
1. オリエンテーション			
講義①	1. 基礎	[1] 人体の成り立ち	人体の階層性
2. 講義②	〃	[2] 細胞の働き	蛋白質の合成
3. 講義③	〃	〃	ATP の合成
4. 講義④	〃	〃	〃
5. 単元テスト(1)			
講義⑤	2. 運動と骨格筋	[1] 骨格筋の構造	
6. 講義⑥	〃	[2] 筋収縮の仕組み	
7. 講義⑦	〃	[3] 筋線維の機能分化	
8. 講義⑧	〃	〃	
9. 単元テスト(2)			
講義⑨	3. 運動と神経	[1] 神経系の概要	
10. 講義⑩	〃	[2] 運動単位とその機能分化	
11. 講義⑪	〃	〃	
12. 講義⑫	〃	[3] 骨格筋の感覚器	
13. 講義⑬	〃	[4] 姿勢の維持	反射による調節
14. 講義⑭	〃	[5] 随意運動	
15. 期末試験（筆記）			
[教科書]			
生友聖子：最新リハビリテーション基礎講座 生理学、医歯薬出版、2024 年			
[参考図書]			
[授業方法]			
1. 講義 2. チーム基盤型学習（TBL）			
[成績評価方法]			
1. 単元テスト 40% 2. 期末試験 60%			

科目名	運 動 学 I	学年・学期	1 学年・前 期
担当講師	園田 義顕	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている		
[授業内容(概要)]			
生体の構造と機能を把握することで、はじめて運動機能評価および治療の実践が可能となる。運動学は「人間の運動の科学」と定義され、解剖学的構造理解に加え、力学的・生理学的・心理的要素などを動員して理解される必要がある。本講義では、その基礎知識としての人体の骨・関節・筋及び肢位・運動方向の基本事項について理解する。			
[授業の到達目標]			
1.運動に関する基本的な用語を理解する。 2.姿勢、動作の基本原理を理解する。 3.筋収縮と運動の関係を理解する。			
[授業計画]			
回	内容		
1	運動学とはなにか		
2	身体運動の基本肢位		
3	身体の位置と方向		
4	運動の面と軸		
5	関節運動の表現方法		
6	構えと体位、肢位の表現方法		
7	静的姿勢と動的姿勢		
8	重心と支持基底面		
9	筋収縮の基本的性質		
10	筋収縮の機序		
11	筋収縮の種類		
12	運動単位と神経支配比		
13	筋の種類とサイズの原理		
14	身体とテコ		
15	テスト		
[教科書]			
人間の運動学 協同医書出版			
[参考図書]			
基礎運動学 中村隆一・斎藤宏著 医歯薬出版 プリント等資料を随時配布			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
テスト (100 点)			

科目名	運 動 学 II	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
運動学は運動を研究する学問であり、対象が人間に限定されるならばそれは人間運動の科学的研究となる。運動を実行する身体の構造的側面と機能的側面が理解されることによって、はじめて人間の運動の治療が可能となる。本講義では、下肢（股関節・膝関節・足関節・足部）における骨、関節、靱帯、筋の働きについて理解することを目的とする。			
[授業の到達目標]			
1. 運動学における身体の構造学的側面と機能的側面について理解する 2. 下肢（股関節・膝関節・足関節・足部）における骨、関節、靱帯の働きについて理解する 3. 下肢（股関節・膝関節・足関節・足部）における筋の働きについて理解する			
[授業計画]			
1. 運動学における身体の構造学的側面と機能的側面 2. 股関節の構造学 3. 股関節の骨・関節・靱帯・筋の働き① 4. 股関節の骨・関節・靱帯・筋の働き② 5. 股関節の運動学のポイント 6. 膝関節の構造学 7. 膝関節の運動メカニズム 8. 膝関節の骨・関節・靱帯・筋の働き① 9. 膝関節の骨・関節・靱帯・筋の働き② 10. 膝関節の運動学のポイント 11. 足関節の構造学 12. 足部の知覚 13. 足関節の運動メカニズム 14. 足関節の筋作用 15. テスト			
[教科書]			
人間の運動学 協同医書出版 ※その他、関係プリント資料を随時配布			
[参考図書]			
基礎運動学 中村隆一・斎藤宏著 医歯薬出版 カパンディ 関節の生理学 医歯薬出版株式会社			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席状況 5%、テスト 95%の全体 100%とする			

科目名	病 理 学 概 論	学年・学期	1 学年・通 年
担当講師	大原 栄二・他	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	臨床検査技師として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
病理学は、疾病の原因とその成り立ちについての学問であり、医学・医療の最も基本的な学問である。疾病に関してその原因を明らかにし、その原因が生体にどのように作用しそれに対する生体の反応がどのようなものであり、その結果どのような経過を経て疾病が成立し、進行、終息していくのか(予後)を知る学問である。総論では、疾病に共通する病変について、各論では、がんのリハビリテーションについての構成内容としている。			
[授業の到達目標]			
1. 疾病の原因とその成り立ちについて理解する 2. それぞれの病変や障害について理解する 3. 腫瘍について理解し、がんリハビリテーションについて理解する			
[授業内容]			
1. 病理学総論 2. 退行性病変 3. 代謝異常 4. 進行性病変 5. 全身・局所の循環障害 6. 免疫 7. 炎症及び感染症 8. 腫瘍 9. 先天異常や奇形 10. 全体のまとめ 11. がんのリハビリテーション概論 12. がんのリハビリテーション概論 13. 骨転移とリンパ浮腫に対するリハビリテーション 14. 骨転移とリンパ浮腫に対するリハビリテーション 15. まとめ			
[教科書]			
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第5版			
[参考図書]			
① 図解入門 よくわかる病理学の基本としくみ 秀和システム ② 病理学：第4版：坂本 穆彦 編 医学書院 系統看護学講座．専門基礎分野．疾病のなりたちと回復の促進〔1〕 ③ 病理学 第2版：梶原博毅 編 医学書院 2003. 標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野シリーズ監修（奈良、鎌倉）			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席 15%と試験 85%の合計を評定とする			

科目名	運 動 発 達 学	学年・学期	1 学年・前 期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1 単位・1 5 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
運動発達理論について理解し、胎児期から新生児期、乳児期、学童期における運動発達年齢や運動発達における姿勢反射と動作の関連性を理解する。 あわせて、認知発達の重要性について理解し、子どもの発達科学の動向を知る。			
[授業の到達目標]			
1. 運動発達理論について理解する 2. 運動発達年齢や運動発達における姿勢反射と動作の関連性を理解する。 3. 認知発達について理解する			
[授業計画]			
1. 運動と感覚 2. 運動発達学総論 3. 正常運動発達と姿勢反射（Ⅰ） 4. 正常運動発達と姿勢反射（Ⅱ） 5. 正常運動発達と姿勢反射（Ⅲ） 6. 認知発達 7. 子どもの発達科学と小児のリハビリテーション 8. テスト			
[教科書]			
人間の運動学 協同医書出版			
[参考図書]			
新版 姿勢と動作 メヂカルフレンド社 脳性麻痺の反射検査 第2版 医歯薬出版 小児リハビリテーションのための神経と発達の診かた 新興医学出版社 運動の生物学（2）：臨床家のための発達科学入門，塚本芳久著 協同医書出版 乳児の発達：正常とボーダーライン，Flehmg 著（諸岡啓一訳） 文光堂			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席状況 5%とテスト 95%の合計 100%とする			

科目名	解剖学演習	学年・学期	1 学年・前期
担当講師	田淵 充勇	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
・骨（部位）の名称や形状，特徴について理解する			
・筋の名称や作用について理解する			
[授業の到達目標]			
1. 骨部位の名称や形状を答えることができる。			
2. 骨部位の名称を解剖模型で指し示すことができる。			
3. 筋の名称とその作用について答えることができる。			
4. 作用から筋を答えることができる。			
[授業計画]			
回	内容		
1	骨総論，骨の名称		
2	骨（鎖骨，肩甲骨，上腕骨）		
3	骨（尺骨，橈骨，手根骨，手指骨）		
4	骨（骨盤（寛骨，仙骨，尾骨），大腿骨）		
5	骨（脛骨，腓骨，足根骨，足趾骨）		
6	骨（脊柱（頸椎，胸椎，腰椎），肋骨，胸骨，頭蓋骨）		
7	骨のまとめ，筋総論		
8	筋（肩関節の運動）		
9	筋（肩甲骨，肘関節，前腕の運動）		
10	筋（手関節，手指の運動）		
11	筋（股関節，膝関節の運動）		
12	筋（足関節，足趾の運動）		
13	筋（体幹，頸部の運動）		
14	筋のまとめ		
15	単位認定テスト		
[教科書]			
カラー人体解剖学 （西村書店）			
新・徒手筋力検査法 （協同医書出版社）			
※関係プリント資料を随時配布			
[参考図書]			
人間の運動学 （協同医書出版社）			
Know the Body （医歯薬出版株式会社）			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
演習（20%程度），単位認定テスト（80%程度）の合計 100 点			

科目名	解剖生理学演習	学年・学期	1 学年・通 年
担当講師	八坂 一彦・高橋 弘	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	八坂 一彦：理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている		
[授業内容(概要)]			
担当：八坂 一彦 内臓の全体像と機能 筋肉の名称、作用、起始・付着、支配神経、他			
担当：高橋 弘 人体解剖実習			
[授業の到達目標]			
1. 内臓の解剖生理を理解する（循環、呼吸、消化器を中心に） 2. 筋の起始・付着、支配神経、髄節を理解する 3. 人体解剖の見学を通じて、人体解剖の理解を深める。			
[授業計画]			
回	内容		
1	消化器の構造と機能		
2	循環器の構造と機能		
3	呼吸器の構造と機能		
4	中間テスト、下肢筋（骨盤帯）		
5	下肢筋（大腿）		
6	下肢筋（下腿）		
7	下肢筋（足部）		
8	上肢筋（肩甲帯）		
9	上肢筋（上腕）		
10	上肢筋（前腕・手部）		
11	頭頸部・体幹筋・顔面筋		
12	定期試験		
13	人体解剖見学実習		
14	人体解剖見学実習		
15	人体解剖見学実習の課題		
[教科書]			
新・徒手筋力検査法（協同医書出版社）			
[参考図書]			
カラー人体解剖学（西村書店） 人間の運動学（協同医書出版社） Know the Body（医歯薬出版株式会社）			
[授業方法]			
講義 実習 レポート			
[成績評価方法]			
中間テスト(15 点)、小テスト(20 点)、定期試験(55 点)、レポート(10 点)の合計とする。			

科目名	リハビリテーション概論	学年・学期	1 学年・前 期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
リハビリテーションという言葉とその概念が我が国に導入されて半世紀以上が経過し、我が国は高齢・少子社会へと移行し、リハビリテーションの対象が超高齢者からゼロ歳児までの幅広い層を包含する時代となった。また、障害者の自立、生活の質向上を背景として、医療はもとより福祉、保健の領域において、リハビリテーションの必要性和重要性が改めて強調されるようになった。リハビリテーション専門職種は学問領域にとどまることなくリハビリテーション全体を理解しておくことが大切である。この授業では上記に掲げる事項について学んでいく。			
[授業の到達目標]			
リハビリテーション医療の近年的動向を含め、リハビリテーションの全般的概要の理解を目指す。			
[授業計画]			
回	内容		
1	リハビリテーションの総論		
2	リハビリテーションの定義・歴史		
3	リハビリテーションの諸段階		
4	リハビリテーションの諸段階／医学的リハビリテーション		
5	医学的リハビリテーション		
6	リハビリテーション過程		
7	医療保険		
8	介護保険		
9	地域包括ケアシステム		
10	障害学総論		
11	廃用症候群・過用症候群、誤用症候群		
12	障害学：ICD、ICIDH、ICF		
13	障害学：ICD、ICIDH、ICF		
14	障害学：障害受容		
15	定期試験		
[教科書]			
『リハビリテーションビジュアルブック 第2版』落合滋之 Gakken			
『理学療法評価学 第6補訂版』松澤正・江口雅彦 金原出版			
適宜、プリント資料を配布			
[参考図書]			
『リハビリテーション総論』椿原彰夫 診断と治療社			
『理学療法概論』庄本康治 羊土社			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
1. テスト (90%) 2. 出席状況、授業・演習態度 (5%) 3. レポート (5%) の合計とする。			

科目名	リハビリテーション医学	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
講義では、医学モデルと障害モデル、病理指向的アプローチと機能指向的アプローチなど、リハビリテーション医学の基本概念を紹介するとともに、リハビリテーション実施上問題となる機能障害を概説する。また、リハビリテーション医療の対象となる疾病の種類や概念について、基本的な知識を理解する。特に、疾病の原因や疾病による身体の変化に関する基本的な医学用語を理解する。			
[授業の到達目標]			
1. リハビリテーション医学の基本概念、構造、特徴を理解する 2. リハビリテーション医療の対象疾患について理解する 3. リハビリテーション医療に関連する医学用語を理解する			
[授業内容]			
1. リハビリテーション医学の構造と特徴 2. リハビリテーション医療における対象疾患—骨折の基本、高齢者に多い骨折— 3. リハビリテーション医療における対象疾患—膝 OA— 4. リハビリテーション医療における対象疾患—股 OA— 5. リハビリテーション医療における対象疾患—RA— 6. リハビリテーション医療における対象疾患—運動麻痺— 7. リハビリテーション医療における対象疾患—運動と感覚— 8. リハビリテーション医療における対象疾患—伝導路— 9. リハビリテーション医療における対象疾患—右片麻痺と左片麻痺— 10. リハビリテーション医療における対象疾患—パーキンソン病— 11. リハビリテーション医療における対象疾患—末梢神経損傷・上肢— 12. リハビリテーション医療における対象疾患—末梢神経損傷・下肢— 13. リハビリテーション医療における対象疾患—人口推計と死因— 14. 全体のまとめ 15. テスト			
[教科書]			
病気がみえる 脳・神経 MEDIC MEDIA			
[参考図書]			
リハビリテーションビジュアルブック 学研メディカル秀潤社			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席状況および小テスト 30%、定期試験 70%の合計 100%として評定する			

科目名	チーム医療概論	学年・学期	1 学年・前 期																		
担当講師	八坂 一彦・他	単位・時間数	1 単位・15 時間																		
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。																				
[授業内容(概要)]																					
病院には、多種多様な医療スタッフが働いている。近年、医療の質や安全性の向上及び高度化・複雑化に伴う業務の増大に対応するため、それぞれの専門スキルを発揮するとともに、異なる職種の医療スタッフが連携・補完しあい、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」が様々な医療現場で実践されている。この授業では各医療スタッフの理解からチーム医療の実践に係わる事項について学んでいく。																					
[授業の到達目標]																					
1. 「チーム医療」に関わる医療スタッフの特徴を理解する 2. チーム医療の実践について理解する。																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>チーム医療総論（各職種）</td></tr><tr><td>2</td><td>各職種の理解 1</td></tr><tr><td>3</td><td>各職種の理解 2</td></tr><tr><td>4</td><td>チーム医療総論（各チーム・特にリハチーム）</td></tr><tr><td>5</td><td>現場で働くコメディカルの実際 1</td></tr><tr><td>6</td><td>現場ではたらくコメディカルの実際 2</td></tr><tr><td>7</td><td>チーム医療の実際</td></tr><tr><td>8</td><td>総まとめ</td></tr></table>				回	内容	1	チーム医療総論（各職種）	2	各職種の理解 1	3	各職種の理解 2	4	チーム医療総論（各チーム・特にリハチーム）	5	現場で働くコメディカルの実際 1	6	現場ではたらくコメディカルの実際 2	7	チーム医療の実際	8	総まとめ
回	内容																				
1	チーム医療総論（各職種）																				
2	各職種の理解 1																				
3	各職種の理解 2																				
4	チーム医療総論（各チーム・特にリハチーム）																				
5	現場で働くコメディカルの実際 1																				
6	現場ではたらくコメディカルの実際 2																				
7	チーム医療の実際																				
8	総まとめ																				
[教科書]																					
リハビリテーションビジュアルブック 学研メディカル秀潤社																					
[参考図書]																					
『リハビリテーション総論』 椿原彰夫 診断と治療社																					
[授業方法]																					
講義、演習																					
[成績評価方法]																					
1. 出席状況、授業・演習態度（10%） 2. レポート（90%）の合計とする																					

専門分野

目次

基礎理学療法学

理学療法評価概論 1 — ③⑩

運動療法概論 1 — ③⑪

物理療法概論 1 — ③⑫

理学療法評価学

理学療法評価学Ⅰ 1 — ③⑬

理学療法評価学Ⅱ 1 — ③⑭

理学療法評価学Ⅲ 1 — ③⑮

理学療法治療学

障害者スポーツ学 1 — ③⑯

臨床実習

臨床見学実習 1 — ③⑰

科目名	理学療法評価概論	学年・学期	1 学年・前 期
担当講師	田淵 充勇	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
理学療法評価の意義・目的・種類やその方法について理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 各評価に必要な知識の理解 2. 各評価に必要な技術の習得			
[授業計画]			
回	内容		
1	理学療法評価の総論 1		
2	理学療法評価の総論 2		
3	脈拍，呼吸の理解と測定		
4	体温，経皮的酸素飽和度，血圧の理解と測定		
5	血圧，脈拍の測定		
6	形態計測（上肢長）の理解と測定		
7	形態計測（下肢長）の理解と測定		
8	形態計測（周径）の理解と測定		
9	形態計測のまとめ		
10	疼痛の理解と測定		
11	姿勢の理解と評価		
12	意識障害の理解と測定		
13	表在感覚の理解と測定		
14	深部感覚の理解と測定		
15	単位認定テスト		
[教科書]			
理学療法評価学（金原出版） PT 評価 ポケット手帳（ヒューマン・プレス）			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 実技			
[成績評価方法]			
単位認定テスト：100 点			

科目名	運動療法概論	学年・学期	1 学年・通 年
担当講師	田淵 充勇	単位・時間数	1 単位・45 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
運動療法を実践する上で必要な解剖学、生理学、運動学、病理学の基本事項について理解し、また、運動療法の基本的な技術を体験することを通して、運動療法に対する理解を深める。			
[授業の到達目標]			
1. 各運動療法を実践する上で必要な知識の理解 2. 各運動療法を実践する上で必要な技術の習得 3. 代表的な運動療法の理解と実践			
[授業計画]			
回	内容	回	内容
1	総論	16	腰痛の基礎とリハビリテーションの実践
2	運動療法に用いられる機器・道具	17	治療体操の基礎と実践
3	関節運動の基礎 1	18	姿勢調節障害の基礎
4	関節運動の基礎 2	19	協調運動障害の基礎とリハビリテーションの実践
5	関節可動域練習の実践	20	神経生理学的アプローチの基礎
6	ストレッチの基礎	21	運動学習の基礎
7	ストレッチの実践	22	まとめ
8	筋力増強理論 1	23	単位認定テスト
9	筋力増強理論 2		
10	筋力増強理論 3		
11	筋力増強運動の基礎 1		
12	筋力増強運動の基礎 2		
13	筋力増強運動の実践 1		
14	筋力増強運動の実践 2		
15	持久力運動の基礎		
[教科書]			
理学療法学テキスト 運動療法学（メジカルビュー社） ※関係プリント資料を随時配布			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
単位認定テスト：100 点			

科目名	物理療法概論	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
この授業では、物理療法に関する基本的な事項から、物理療法の適応に係る病態の理解、具体的な物理療法（特に温熱療法、寒冷療法、水治療法、牽引療法）の実践方法について学んでいく。			
[授業の到達目標]			
1. 物理療法の種類について理解する。 2. 物理療法の適応の多い病態を理解する。 3. 物理療法の適応と禁忌について理解する。 4. 温熱、寒冷、水治、牽引療法について理解し、実践する。			
[授業計画]			
回	内容		
1	物理療法総論、温熱療法総論		
2	温熱療法（ホットパック）：使用備品、実施手順		
3	温熱療法（ホットパック）：目的、生理学的機序		
4	温熱療法（ホットパック）：生理学的機序、適応・禁忌		
5	温熱療法（パラフィン）：使用備品、実施手順 寒冷療法総論		
6	寒冷療法：目的、生理学的機序		
7	寒冷療法：目的、生理学的機序		
8	寒冷療法：適応・禁忌、実施手順、水治療法総論		
9	水治療法：生理学的機序		
10	水治療法：生理学的機序、適応・禁忌、実施手順		
11	牽引療法：総論、生理学的機序、適応・禁忌		
12	牽引療法（頸椎牽引）：実施手順		
13	牽引療法（腰椎牽引）：実施手順		
14	牽引療法（股関節牽引）：実施手順		
15	定期試験		
[教科書]			
『物理療法 第2版』千住秀明・監修、沖田実・編集（神陵文庫）			
[参考図書]			
『理学療法ハンドブック 第2巻治療アプローチ』細田多穂・他編（協同医書出版社）			
『EBM 物理療法 原著第4版』Michelle H. Cameron・編著、渡部一郎・監訳（医歯薬出版株式会社）			
『機能障害科学入門』千住秀明・監修（神陵文庫）			
[授業方法]			
講義 演習 実習			
[成績評価方法]			
出席状況（5点）、授業、演習・実習態度（5点）、レポート（10点）、テスト（80点）の合計とする			

科目名	理学療法評価学Ⅰ	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	田淵 充勇	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
関節可動域検査の意義、手順、結果の解釈、各関節の関節可動域の検査方法を学ぶ			
[授業の到達目標]			
1. 各関節の関節可動域検査に必要な知識の理解 2. 各関節の関節可動域検査に必要な技術の習得 3. 関節可動域検査の国家試験問題の理解			
[授業計画]			
回	内容		
1	関節可動域検査の総論、関節可動域検査（膝関節：屈曲・伸展）、演習		
2	関節可動域検査（股関節：屈曲・伸展・外転）		
3	関節可動域検査（股関節：内転・外旋・内旋）		
4	関節可動域検査（足関節：底屈・背屈）		
5	関節可動域検査（足部：外がえし・内がえし・外転・内転）		
6	関節可動域検査（肩関節：屈曲・伸展・外転）		
7	関節可動域検査（肩関節：内転・外旋・内旋）		
8	関節可動域検査（肩関節：水平外転・水平内転、肘関節：屈曲・伸展）		
9	関節可動域検査（前腕：回内・回外、手関節：掌屈・背屈・橈屈・尺屈）		
10	関節可動域検査（手指、肩甲帯：屈曲・伸展・挙上・下制）		
11	関節可動域検査（頸部：屈曲・伸展・側屈・回旋）		
12	関節可動域検査（胸腰部：屈曲・伸展・側屈・回旋）		
13	国家試験問題の実践		
14	関節可動域検査のまとめ（実技）		
15	単位認定テスト		
[教科書]			
理学療法評価学 （金原出版） PT 評価 ポケット手帳 （ヒューマン・プレス） ＊プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
『know the body』（医歯薬出版）			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
演習：5 点 実技テスト：45（40）点 単位認定テスト：50（55）点			

科目名	理学療法評価学Ⅱ	学年・学期	1 学年・通 年
担当講師	園田 義顕	単位・時間数	1 単位・45 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
人間の身体運動を客観的に捉えていくために実施する評価の中で、筋出力の測定は基本的かつ重要な項目である。特に理学療法においては、より整合性の高い目標を設定していくための重要な指標となるため、筋出力の正確な検査・測定技術を身につけることは必須である。本講義では、臨床現場で頻繁に用いられる「徒手筋力検査法（Manual Muscle Testing：MMT）」について、正確な測定技術を身につけることを目標とする。			
[授業の到達目標]			
1.筋出力の正確な検査について理解し、測定技術を身につける 2.下肢の徒手筋力検査法について理解する 3.上肢の徒手筋力検査法について理解する 4.頸部・体幹・顔面の徒手筋力検査法について理解する			
[授業計画]			
回	内容	回	内容
1	MMT 総論	16	頸部屈曲／伸展の MMT
2	股関節屈曲／伸展筋の MMT	17	頸部側屈／回旋の MMT
3	股関節外転／内転筋の MMT	18	体幹屈曲／伸展の MMT
4	股関節外旋／内旋筋の MMT	19	頸部側屈／回旋の MMT
5	膝関節屈曲／伸展筋の MMT	20	顔面筋の MMT
6	足関節底屈／背屈筋／足趾の MMT	21	ハンドヘルドダイナモメトリー
7	テスト	22	テスト
8	肩関節屈曲／伸展筋の MMT	23	実技テスト
9	肩関節外転／内転筋の MMT		
10	肩関節外旋／内旋筋の MMT		
11	肩甲帯周囲筋の MMT		
12	肘関節屈曲／伸展筋の MMT		
13	前腕回外／回内筋の MMT		
14	手関節掌屈／背屈／撓尺屈筋の MMT		
15	手指の MMT		
[教科書]			
新・徒手筋力検査法（協同医書出版社） PT 評価 ポケット手帳（ヒューマン・プレス）			
[参考図書]			
新板 目で見える MMT（医歯薬出版株式会社） 臨床での検査精度を高める！MMT 適切な検査肢位の設定と代償運動の制御（メジカルビュー社）			
[授業方法]			
講義 実技			
[成績評価方法]			
筆記 80%（前期 35%・後期 45%） 実技 20%の合計とする。			

科目名	理学療法評価学Ⅲ	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	園田 義顕	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
臨床において必要となる各種の検査・測定のうち、1，反射検査（深部反射・表在反射・病的反射）、2，筋トーヌス検査、3，バランス検査を中心として、各評価に必要な学問背景の講義と検査の実技を行う。			
[授業の到達目標]			
1.反射のメカニズムと反射検査の方法を理解し、実践できる。			
2.筋トーヌスのメカニズムと筋緊張検査の方法を理解し、実践できる。			
3.バランスのメカニズムとバランス検査の方法を理解し、実践できる。			
[授業計画]			
回	内容		
1	反射の種類とメカニズム		
2	筋緊張の神経制御		
3	深部反射検査の実際		
4	表在反射検査の実際		
5	病的反射検査の実際		
6	反射所見の記録法		
7	筋トーヌスの異常所見		
8	筋トーヌス異常と病理		
9	筋トーヌス検査の実際		
10	座位バランスの制御機構		
11	立位バランスの制御機構		
12	バランス検査の実際（1）		
13	バランス検査の実際（2）		
14	疾患と神経兆候の見かた		
15	テスト		
[教科書]			
理学療法評価学（金原出版）			
PT 評価 ポケット手帳（ヒューマン・プレス）			
ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭・斉藤佳雄著（南山堂）			
[参考図書]			
標準理学療法学シリーズ：理学療法評価学 奈良 勲監修（医学書院）			
リハビリテーション診療必携第3版 渡辺英夫編（医歯薬出版）			
人体の正常構造と機能 坂井 建雄・河原 克雅 編（日本医事新報；改訂第2版）			
[授業方法]			
講義および実技			
[成績評価方法]			
授業内で実施する実技テスト（20%）、筆記テスト（80%）の合計とする。			

科目名	障害者スポーツ学	学年・学期	1 学年・通 年
担当講師	八坂 一彦・他	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
この授業では、パラスポーツに係わる基本的事項について学びます。 また、実際のスポーツ大会にスタッフと参加し、指導あるいは支援するために必要な知識や技術が習得できるように取り組みます。			
[授業の到達目標]			
1. 初級パラスポーツ指導員の取得を目指す。 2. 障がいや障がい者スポーツの楽しさ、安全管理等に関する基礎的な知識を身につけ、障がい者に対応するための基本的な技術の獲得を目指す。 3. 地域の大会や行事に参加し、障がい者スポーツを体験する。			
[授業計画]			
回	内容		
1	障がい者スポーツ 総論		
2	障がい者スポーツの意義と理連		
3	全国及び高知県障害者スポーツ大会の概要		
4	高知県障害者スポーツ大会・運営ボランティア		
5	高知県障害者スポーツ大会・運営ボランティア		
6	高知県障害者スポーツ大会・運営ボランティア		
7	安全管理		
8	障がいの理解（視覚障害、聴覚障害）		
9	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質		
10	障害者スポーツに関する諸施策		
11	障がい者スポーツ推進の取組		
12	高知県障害者スポーツ大会（FD 競技）・運営ボランティア		
13	高知県障害者スポーツ大会（FD 競技）・運営ボランティア		
14	高知県障害者スポーツ大会（FD 競技）・運営ボランティア		
15	レポート課題		
[教科書]			
改正版 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級) ぎょうせい 全国障害者スポーツ大会 競技規則集 公益社団法人日本障がい者スポーツ協会			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況、授業・実習態度（5 点） 2. レポート（95 点）の合計とする			

科目名	臨床見学実習	学年・学期	1 学年・通 年
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1 単位・45 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
臨床現場での見学を通して、理学療法士の職業理解や理学療法過程の理解を深める。 また、患者対応に必要な医療人としての素養や態度、言葉遣いなどコミュニケーションについて、多様な疾患、年齢に対する方法の理解を深める。			
[授業の到達目標]			
1. 臨床現場での見学を通して、理学療法士の職業理解を深める。 2. 臨床現場での見学を通して、理学療法過程の理解を深める。 3. 患者対応に必要な医療人としての態度、言葉遣いなどコミュニケーションについて理解を深める。			
[授業計画]			
1. 医療施設における臨床見学実習(1 日) 2. 医療施設における臨床見学実習(1 日) 3. 医療施設における臨床見学実習(1 日) 4. 高齢者施設における臨床見学実習(1 日) 5. 小児施設(総合)における臨床見学実習(1 日) 6. 全体終了後のまとめ			
[授業方法]			
指定医療施設にて、担当理学療法士および実習担当教員の下、合計 5 日間の臨床見学実習			
[成績評価方法]			
出席状況、実習内容状況(臨床実習指導者と教員による状況確認)、 指導者作成の臨床見学実習評価チャート、学生作成の臨床見学実習報告書を元に、 学内で臨床見学実習単位認定会議を開催し評定する。			

2 学年 授業科目要綱

2
年
生

令和7年度 2学年・授業科目・単位数・担当者一覧

2年生

分野 指定規則単位		科 目		単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基礎	身 体 哲 学 概 論		1	15	1						合田 正人・宮本 省三	非常勤講師・他	
		脳 科 学 概 論		1	15		1					宮本 省三	専任講師	
		ス ポ ー ツ 科 学 概 論		1	15	1						八坂 一彦・他	専任講師・他	
		医 学 用 語		1	15	1						小野 美紀	専任講師	
		医 学 英 語		1	15		1					小野 美紀	専任講師	
		情 報 科 学 演 習		1	30	1						大畑 剛・他	非常勤講師	
	人間と生活	発 達 心 理 学		1	15		1					宮本 省三・他	専任講師・他	
		運 動 心 理 学		1	15	1						宮本 省三・他	専任講師・他	
		人 間 発 達 学		1	15	1						山口 一郎	非常勤講師	
		日 常 生 活 動 作 概 論		1	15		1					小野 美紀・他	専任講師・他	
		保 健 体 育		1	30	1						刈谷 三郎	非常勤講師	
	社会の理解	社 会 福 祉 学		1	15	1						稲垣 佳代	非常勤講師	
		コミュニケーション概論		1	15	1						小野 美紀・他	専任講師・他	
		社 会 活 動 概 論		1	15	1						園田 義顕・他	専任講師・他	
計	14			14	240	7	7	0	0	0	0			
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解 剖 学 I	1	12	30	1					高橋 弘	非常勤講師	
			解 剖 学 II	1		30		1				高橋 弘	非常勤講師	
			解 剖 学 III	1		30	1					田中 健二郎	非常勤講師	
			解 剖 学 IV	1		30		1				田中 健二郎	非常勤講師	
		生理学	生 理 学 I	1		30	1					有川 幹彦	非常勤講師	
			生 理 学 II	1		30		1				村田 芳博	非常勤講師	
			生 理 学 III	1		30			1			大塚 智子	非常勤講師	
			生 理 学 IV	1		30				1		有川 幹彦	非常勤講師	
		運動学	運 動 学 I	1		30	1					園田 義顕	専任講師	
			運 動 学 II	1		30		1				宮本 省三	専任講師	
			運 動 学 III	1		30			1			宮本 省三	専任講師	
			運 動 学 IV	1		30			1			園田 義顕	専任講師	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病 理 学 概 論	1	14	30	1						大原 栄二・他	非常勤講師	
		リハビリテーション内科学	1		30			1				柿沼 由彦・他	専任講師・他	
		リハビリテーション整形外科	1		30			1				沖田 学・他	非常勤講師	
		リハビリテーション神経学	1		45			1				園田 義顕・田淵 充勇	専任講師	
		リハビリテーション栄養・薬理学	1		15			1				小野 美紀・他	専任講師・他	
		救命救急医学・リスク管理学	1		15				1			池田 武史・他	非常勤講師	
		臨床データ診断学	1		15						1			
		精 神 医 学	1		30				1			川淵 忠義・他	非常勤講師	
		老 年 病 学	1		30			1				小野 美紀・他	専任講師	
		運 動 発 達 学	1		15	1						宮本 省三	専任講師	
		解 剖 学 演 習	1		30	1						田淵 充勇	専任講師	
		生 理 学 演 習	1		30			1				村田 芳博	非常勤講師	
		解 剖 生 理 学 演 習	1		30		1					宮本 省三・高橋 弘	専任講師	
		運 動 学 演 習	1		30			1				田淵 充勇・他	専任講師・他	
		リハビリ療養福祉と理念	リハビリテーション概論		1	4	30	1					八坂 一彦	専任講師
			リハビリテーション医学		1		30		1				小野 美紀	専任講師
	社 会 保 障 論		1	15						1				
	チ ャーム医療概論		1	15	1						八坂 一彦・他	専任講師・他		
計	30			30	825	8	7	6	7	0	2			

分野 指定規則単位		科 目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門分野	基礎理学療法学	理 学 療 法 評 価 概 論	1	6	30	1					宮本 省三	専任講師		
		運 動 療 法 概 論	1		45		1				田淵 充勇	専任講師		
		物 理 療 法 概 論	1		30		1				八坂 一彦	専任講師		
		理学療法基礎セミナーⅠ	1		30			1			宮本 省三・他	専任講師		
		理学療法基礎セミナーⅡ	1		45					1				
		理学療法基礎セミナーⅢ	1		45					1				
	理学療法評価学	理 学 療 法 評 価 学Ⅰ	1	6	30		1				田淵 充勇	専任講師		
		理 学 療 法 評 価 学Ⅱ	1		45		1				宮本 省三	専任講師		
		理 学 療 法 評 価 学Ⅲ	1		30		1				園田 義顕	専任講師		
		理 学 療 法 評 価 学Ⅳ	1		30			1			園田 義顕	専任講師		
		理 学 療 法 評 価 学Ⅴ	1		30				1		田淵 充勇	専任講師		
		理学療法評価学演習	1		30			1			宮本 省三・他	専任講師		
	理学療法管理学	理 学 療 法 管 理 学	1	2	15					1				
		理 学 療 法 教 育 学	1		15					1				
	理学療法治療学	関節機能障害理学療法学	1	20	30			1				宮内 博雄・荒田 昭宏	非常勤講師	
		一 般 外 傷 理 学 療 法 学	1		30			1				八坂 一彦	専任講師	
		ス ポ ー ツ 外 傷 理 学 療 法 学	1		30				1				大久保 吏司・古川 裕之	非常勤講師
		障 害 者 ス ポ ー ツ 学	1		30		1					八坂 一彦・他	専任講師・他	
		末梢神経障害理学療法学	1		30				1			田淵 充勇・他	専任講師	
		脊 髄 障 害 理 学 療 法 学	1		30				1			高橋 昭彦・他	非常勤講師	
		脳 障 害 理 学 療 法 学Ⅰ	1		30			1				宮本 省三	専任講師	
		脳 障 害 理 学 療 法 学Ⅱ	1		30				1			宮本 省三	専任講師	
		脳 障 害 理 学 療 法 学Ⅲ	1		30				1			園田 義顕	専任講師	
		小 児 理 学 療 法 学	1		30				1			宮本 謙三	非常勤講師	
		呼吸器障害理学療法学	1		30			1				宅間 豊	非常勤講師	
		循環器障害理学療法学	1		30			1				前田 秀博	非常勤講師	
		物 理 療 法 学	1		30			1				八坂 一彦	専任講師	
		義 肢 学	1		30				1			鶴見 隆正	非常勤講師	
		装 具 学	1		30			1				岡上 正弘	非常勤講師	
		日 常 生 活 動 作 学	1		30			1				小野 美紀	専任講師	
		運 動 療 法 技 術 学	1		30				1			八坂 一彦	専任講師	
		認知神経リハビリテーション学	1		30				1			宮本 省三・他	専任講師	
		理学療法治療学セミナー	1		45						1			
		理 学 療 法 研 究 法	1		30						1			
	地域理学療法学	地域リハビリテーション学Ⅰ	1	3	30			1				佐藤 健三	非常勤講師	
		地域リハビリテーション学Ⅱ	1		30			1				小野 美紀	専任講師	
		生 活 環 境 論	1		30				1			小野 美紀	専任講師	
	臨床実習	臨 床 見 学 実 習	1	20	45		1					宮本 省三	専任講師	
		臨 床 評 価 実 習Ⅰ	1		45			1				宮本 省三	専任講師	
		臨 床 評 価 実 習Ⅱ	2		90			2				宮本 省三	専任講師	
総 合 臨 床 実 習		15	675					15						
地 域 見 学 実 習		1	45							1				
計	57		57	2055	1	7	11	16	15	7				
合計	101		101	3120	16	21	17	23	15	9				
3120時間					37単位		40単位		24単位					
					945時間		1230時間		945時間					
					101単位 3120時間									

専門基礎分野

目次

人体の構造と機能及び心身の発達

〈生理学〉

生理学Ⅲ 2－①

生理学Ⅳ 2－②

〈運動学〉

運動学Ⅲ 2－③

運動学Ⅳ 2－④

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

リハビリテーション内科学 2－⑤

リハビリテーション整形外科学 2－⑥

リハビリテーション神経学 2－⑦

リハビリテーション栄養・薬理学 2－⑧

救命救急医学・リスク管理学 2－⑨

精神医学 2－⑩

老年病学 2－⑪

生理学演習 2－⑫

運動学演習 2－⑬

科目名	生 理 学 Ⅲ	学年・学期	2 学年・前 期
担当講師	大塚 智子	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	獣医師として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
1 年次に引き続き、人体の正常な生理機能を学習する。 生理学Ⅲでは、内分泌、消化・吸収、血液、体温調節を取り上げる。			
[授業の到達目標]			
1. 各ホルモンの分泌組織、名称、作用および作用機序について説明できる。 2. 各消化器における消化（消化酵素の分泌機序、消化器の運動）と吸収の仕組み、摂食、排便について説明できる。 3. 血液の成分と機能について説明できる。 4. 体内における熱産生と熱放散、体温の生理的変動および体温調節機構について説明できる。			
[授業計画]			
講義①内分泌：総論 ②内分泌：視床下部，下垂体（前葉） ③内分泌：下垂体（後葉），松果体，卵巣と精巣 ④内分泌：甲状腺，副甲状腺（上皮小体） ⑤内分泌：副腎 ⑥内分泌：膵臓 ⑦消化・吸収：総論，口腔，唾液腺 ⑧消化・吸収：咽頭，食道 ⑨消化・吸収：胃 ⑩消化・吸収：膵臓，肝臓，胆嚢 ⑪消化・吸収：小腸（十二指腸，空腸，回腸），大腸（結腸，直腸），肛門 ⑫血液 ⑬体温とその調節 ⑭まとめ ⑮試験			
[教科書]			
岡田隆夫：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学・第 6 版、医学書院			
[参考図書]			
河田光博『シンプル解剖生理学』南江堂 小澤澪司『標準生理学』医学書院			
[授業方法]			
教科書，配布資料，スライド			
[成績評価方法]			
小テスト 20 点，単位認定テスト 80 点の合計 100 点とする。			

科目名	生 理 学 IV	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	有川 幹彦	単位・時間数	1単位・30時間
[授業内容(概要)]			
生理学Ⅲに引き続き、人体の正常な生理機能を学習することで環境適応の仕組みを理解し、主要な疾患の病態生理を概説できるようにする。生理学Ⅳでは、2年間の締めくくりとして、「心臓と循環」、「呼吸とガスの運搬」、「尿の生成と排泄」、および「体液調節」の4つをテーマに講義を行う。解剖学や臨床系科目などと関連付けるよう促すことで、理解の充実と知識の定着を目指す。			
[授業の到達目標]			
1. 循環器系の構造と機能を理解し、循環調節のメカニズムについて説明できる。 2. 呼吸器系の構造と機能を理解し、呼吸調節のメカニズムについて説明できる。 3. 泌尿器系の構造と機能を理解し、尿生成のメカニズムについて説明できる。 4. 体液調節のメカニズムについて説明できる。			
[授業計画]			
回	内容		
1	1 心臓と循環	1.1	血液
2		1.2	心臓の構造と機能
3		1.3	心拍出量の調節
4		1.4	血圧と血管
5		1.5	循環調節のしくみ（1）
6		1.6	循環調節のしくみ（2）・心電図
7	2 呼吸とガスの運搬	2.1	肺の構造と機能
8		2.2	ガス交換とガス分圧
9		2.3	呼吸を調節するしくみ・肺機能検査
10	3 尿の生成と排泄	3.1	腎臓の構造と機能
11		3.2	尿細管での再吸収と分泌（1）
12		3.3	尿細管での再吸収と分泌（2）・排尿
13	4 体液調節		
14	5 まとめ		
15	試験		
[教科書]			
岡田隆夫：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野、生理学・第6版、医学書院、2023年			
[参考図書]			
貴邑富久子：シンプル生理学・改定第8版、南江堂、2021年			
坂井建雄：人体の正常構造と機能・改訂第4版、日本医事新報社、2021年			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
確認問題による講義内容の理解度（30%）と単位認定試験（70%）の合計とする。			

科目名	運 動 学 Ⅲ	学年・学期	2学年・前 期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
本講義は、運動学Ⅱに引き続き、進めていく。上肢（肩関節・肘関節・前腕・手関節・手）および上肢と体幹の運動における骨、関節、靱帯、筋の働きなどの基本事項について理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 運動学における身体の構造学的側面と機能的側面について理解する			
2. 上肢（肩関節・肘関節・前腕・手関節・手）および体幹における骨、関節、靱帯の働きについて理解する			
3. 上肢（肩関節・肘関節・前腕・手関節・手）および体幹における筋の働きについて理解する			
[授業計画]			
1. 上肢運動学における身体の構造学的側面と機能的側面			
2. 肩関節の構造学			
3. 肩関節の骨・関節・靱帯・筋の働き			
4. 肩甲上腕リズム			
5. 肩の腱板機能			
6. 肩の筋作用			
7. 肘関節の構造学			
8. 前腕の機能			
9. 手関節の骨・関節・靱帯・筋の働き			
10. 手関節の運動学のポイント			
11. 手関節の筋作用			
12. 手の知覚			
13. 脊柱の骨・関節・靱帯・筋の働き			
14. 体幹の筋作用			
15. テスト			
[教科書]			
人間の運動学 協同医書出版			
※その他、関係プリント資料を随時配布			
[参考図書]			
基礎運動学 中村隆一・斎藤宏著 医歯薬出版			
カパンディ 関節の生理学 医歯薬出版株式会社			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席状況 5%、テスト 95%の全体 100%とする			

科目名	運 動 学 IV	学年・学期	2 学年・前 期
担当講師	園田 義顕	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている		
[授業内容(概要)]			
実践的な理学療法を行うための臨床思考について解説する。特に臨床場面で対処することが最も多くかつ人間にとって最も基本的な運動である「歩行機能」について学ぶ。また歩行の正常とそこから逸脱したものを学ぶことにより、その評価、治療における基礎をつくる。			
[授業の到達目標]			
1.歩行に関する用語を理解する。 2.正常歩行の各相の運動（筋活動と可動範囲）と役割を理解する。 3.正常歩行における各関節の機能を理解し、逸脱性歩行との違いを理解する。			
[授業計画]			
回	内容		
1	歩行に関する用語（歩行周期、歩幅、歩隔、足角）		
2	立脚期と遊脚期		
3	立脚初期と荷重応答期の特徴と役割		
4	立脚中期と立脚後期の特徴と役割		
5	前遊脚期の特徴と役割		
6	遊脚初期から遊脚後期の特徴と役割		
7	歩行時の上下動、左右動とその制御		
8	ロッカーファンクション		
9	歩行に特異的な運動と衝撃吸収メカニズム		
10	歩行時の足関節、足趾の運動		
11	歩行時の膝関節の運動		
12	歩行時の股関節の運動		
13	高齢者、小児、逸脱性歩行との違い		
14	歩行における各指標		
15	テスト		
[教科書]			
人間の運動学 協同医書出版			
[参考図書]			
観察による歩行分析 ゲッツ・ノイマン,キルステン著,月城慶一 他訳 医学書院 基礎運動学 中村隆一・斎藤宏著 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー Donald A. Neumann 著,嶋田智明 他訳 医歯薬出版 プリント等資料を随時配布			
[授業方法]			
講義と実習			
[成績評価方法]			
テスト 80 点 実習レポート 20 点の合計とする			

科目名	リハビリテーション内科学	学年・学期	2学年・通 年
担当講師	柿沼 由彦・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	医師として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
将来、理学療法士として医療に従事する際に必要な内部障害(循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、代謝、血液、感染症等)の病態生理学・症候学および各種疾患について理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 基本的な臓器の機能を理解する 2. 代表的な疾患の症状を理解する 3. 各種疾患のリハビリテーションについて理解する			
[授業計画]			
回	内容		
1	循環器疾患		
2	循環器疾患		
3	循環器疾患		
4	腎・泌尿器疾患		
5	代謝性疾患		
6	代謝性疾患		
7	呼吸器疾患		
8	呼吸器疾患		
9	感染症、アレルギー疾患		
10	感染症、アレルギー疾患		
11	血液・造血器疾患		
12	血液・造血器疾患		
13	消化器疾患・肝胆膵疾患		
14	消化器疾患・肝胆膵疾患		
15	テスト		
[教科書]			
標準理学療法学・作業療法学 「内科学」 医学書院			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 プリント			
[成績評価方法]			
出席状況・5%、テスト・95%として評定する			

科目名	リハビリテーション整形外科学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	沖田 学・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
リハビリテーション医療において、運動器障害を正しく理解し、評価することは重要である。			
リハビリテーション整形外科学では、運動器に関する基本的理解と診断および治療について基本的事項を理解する。			
また、リハビリテーションの立場から整形外科疾患を呈する患者の治療を担うものとして各整形外科疾患の診断・病理・治療法など基本的知識を習得することを目的とする。			
[授業目標]			
1. 整形外科の歴史的変遷および疾病構造・診断治療の背景を理解する			
2. 上肢および下肢整形疾患とリハビリテーションについて理解する			
3. 脊椎疾患とリハビリテーションについて理解する			
[授業計画]			
1. 整形外科の定義と整形外科を変えた運動			
2. 関節と骨と疾患			
3. 症候学と診断学			
4. 手術療法と保存療法			
5. 運動器の痛みと整形の理学療法診療ガイドライン			
6. 上肢整形疾患の臨床と下肢整形疾患の臨床			
7. 各種疾患の特徴・リハビリテーション①			
8. 各種疾患の特徴・リハビリテーション②			
9. 各種疾患の特徴・リハビリテーション③			
10. 頸椎疾患診察・検査			
11. 頸椎疾患の特徴・リハビリテーション			
12. 腰椎疾患診察・検査			
13. 腰椎疾患の特徴			
14. 腰椎疾患の特徴・リハビリテーション			
15. テスト			
[教科書]			
標準整形外科学 鳥巢岳彦 国分正一総編集 医学書院			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席状況・5%、テスト・95%として評定する			

科目名	リハビリテーション神経学	学年・学期	2 学年・通年
担当講師	園田 義顕・田渕 充勇	単位・時間数	1 単位・45 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
運動の神経機構および機能の基本的理解をし、神経系疾患の病態解釈ができるようになることを目標とする。また、大脳皮質、辺縁系、基底核、小脳、脳幹、脊髄、末梢神経のシステムは運動のみならず言語や記憶をはじめとした高次脳機能の役割を担っており、それらの症状の理解が神経疾患をもつ患者をみるうえで重要となる。			
[授業の到達目標]			
1. 脳血管障害の病態について理解する。 2. 脳血管障害のリスク管理と回復メカニズムについて理解する。 3. 運動関連領域の神経学的機能と運動学習メカニズムを理解する。			
[授業計画]			
回	内容	回	内容
1	脳血管障害に必要な基礎	16	随意運動のメカニズム
2	画像のみかた	17	運動野と運動関連領域
3	総論	18	補足運動野の機能
4	虚血性脳血管障害 1	19	運動前野の機能
5	虚血性脳血管障害 2	20	帯状皮質運動野の機能
6	虚血性脳血管障害 3	21	大脳基底核と小脳の機能
7	虚血性脳血管障害 4	22	運動学習メカニズム
8	出血性脳血管障害 1	23	テスト
9	出血性脳血管障害 2		
10	頭蓋内圧亢進		
11	頭部外傷		
12	脳血管障害のリスク管理 1		
13	脳血管障害のリスク管理 2		
14	脳血管障害の回復メカニズム		
15	前期単位認定テスト		
[教科書]			
1. 脳卒中の画像のみかた 医学書院 2. 病気がみえる 脳・神経 MEDIC MEDIA 3. プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
小テスト（前期・田渕）：10 点、前期単位認定テスト（田渕）：60 点 後期単位認定テスト（園田）：30 点 合計：100 点			

科目名	リハビリテーション栄養・薬理学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	小野 美紀・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
現代のリハビリテーションにおいて、予防、または回復において「栄養」状態の把握は必須である。特に、近年、リハビリテーションを実施する上で、栄養補給方法・嚥下調整食の必要性、栄養状態の把握が必要となり、それらの内容を学習する。 また、ハビリテーションの対象となる患者が服用している薬物について、その作用・副作用等、薬物の影響を理解することは重要である。薬理学・臨床薬理学の基本を学び、リハビリテーションを実施する上で、薬物の影響について学習する。			
[授業の到達目標]			
1. リハビリテーションにおける栄養学・薬理学の基本について理解する 2. 栄養と身体について理解し、栄養状態の把握、栄養補給方法、嚥下調整食について理解する 3. 薬物の作用、影響の基本的な理解およびリハビリテーションと薬物について理解する			
[授業計画]			
1. リハビリテーションと栄養学総論 2. 栄養学総論 3. 栄養状態、栄養補給、栄養と嚥下 4. スポーツ栄養学 5. リハビリテーションと薬理学総論 6. 薬物動態学 7. 薬理学① 8. 薬理学②			
[教科書]			
関係プリント資料を随時配布			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
出席状況と小テスト 20%、課題レポート 80%の合計 100%とする			

科目名	救命救急医学・リスク管理学	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	池田 武史・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
・救命救急医学 救急患者の特殊病態を理解し、疾患と症状、必要な処置などの知識を習得し、将来、医療に携わる者として救急医療に参加出来るようになる。具体的な処置として、一次救命処置の基本となる人工呼吸法、心臓マッサージ等の実施方法を学習する。 ・リスク管理学 医療者としてリスクマネジメントの必要性を学び、疾患や場面におけるインシデントやアクシデントを理解し、リスクマネジメントの実際と対応方法について学習する。			
[授業の到達目標]			
1. 急変時の対応の基本について理解する 2. BSL の基本を学び、その実際が実践できるようにする 3. リスクマネジメントについて理解する 4. 疾患や場面に対する対応について理解する			
[授業計画]			
救命救急医学 1．急変対応理論 2．一次救命措置・BSL(Basic Life Support)の基本と実際 3．一次救命措置・BSL(Basic Life Support)の基本と実際 リスク管理学 1．リスクマネジメントの目的 2．疾患や場面におけるインシデント・アクシデント理解 3．リスクマネジメントの実際と対応 4．感染症の管理について 全体 8．テスト			
[教科書]			
プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義および実技			
[成績評価方法]			
出席状況・授業態度 10%、テスト 90%とし全体で評定する。			

科目名	精 神 医 学	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	川渕 忠義・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	作業療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
精神疾患あるいは精神障害を有する患者の理解に必要な基本的事項やリハビリテーション 場面で治療対象となる領域については、最近の成果も含めた構成としている。			
また、精神保健福祉やリハビリテーションに関しては、法制度・施策を含め、基本的かつ 重要な内容としている。			
[授業の到達目標]			
1. 様々な精神現象の異常を理解することで精神障害に対する理解を深める。			
2. 各精神疾患の基本的知識を習得し、説明することが出来る。			
3. 精神障害の治療とリハビリテーションについて理解する。			
[授業計画]			
回	内容		
1	精神医学の概念と歴史・我が国の精神保健の歴史（法律含む）		
2	精神機能の障害（意識・知覚・自我・思考など）		
3	防衛機制と転移		
4	各論：神経症性障害、心身症、摂食障害、メンタルヘルス関連		
5	精神障害の概念+脳器質性精神障害と症状性精神障害（主な疾患）		
6	精神症状評価・心理検査・精神作業能力検査・精神機能評価尺度・社会機能評価尺度・満足度評価		
7	各論：アルコール等薬物依存		
8	各論：認知症		
9	各論：統合失調症		
10	各論：統合失調症		
11	各論：人格障害、てんかん		
12	各論：睡眠障害、抗精神病薬、精神療法、その他		
13	各論：感情障害		
14	各論：発達障害（ASD、ADHD、学習障害）、知的障害		
15	テスト		
[教科書]			
標準理学療法学・作業療法学 「精神医学」 医学書院			
[参考図書]			
「精神医学」 大月三郎 文光堂			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席状況 5%と筆記試験 95%の合計を評定とする			

科目名	老 年 病 学	学年・学期	2 学年・通 年
担当講師	小野 美紀・他	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
加齢による身体的・精神的変化について学び、高齢者に多くみられる疾患と病態生理、症候などについて理解する。さらに高齢者をとりまく環境について理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 高齢者に特徴的な症候と疾患について理解する 2. 認知症と精神疾患について理解する 3. 骨粗鬆症と運動器疾患について理解する 4. 高齢者に特徴的な神経疾患について理解する 5. 高齢者をとりまく環境について理解する			
[授業計画]			
回	内容		
1	老年医学総論		
2	認知症と精神疾患①		
3	認知症と精神疾患②		
4	認知症と精神疾患③		
5	認知症と精神疾患④		
6	加齢に伴う運動機能の変化		
7	加齢と変形性関節症		
8	加齢と骨～骨粗鬆症～		
9	骨に対する取り組み～FLS と OLS～		
10	神経系の老化と疾患		
11	神経疾患①		
12	神経疾患②		
13	神経疾患③		
14	高齢者をとりまく環境と対応		
15	高齢者と環境設定		
[教科書]			
標準理学療法学・作業療法学：老年学（医学書院）			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席状況 5%と課題レポート 95%で合計 100%として評定する			

科目名	生 理 学 演 習	学年・学期	2学年・通 年
担当講師	村田 芳博	単位数	1単位・30時間
[授業内容(概要)]			
講義で学修した人体の正常機能は、実験や観察に基づいて明らかにされてきた。本科目では、自らが被検者および検者となって筋電図（EMG）を測定・観察することによって、正常な運動機能ならびに臨床での生理機能検査に対する理解を深める。			
[授業の到達目標]			
1. 学生が、人体の正常な運動機能とその仕組みを他の学生に分かりやすく説明できる。			
2. 学生が、筋電図とその測定原理・方法を理解できる。			
3. 学生が、筋電図を用いた運動機能評価・神経機能評価の原理を理解できる。			
[授業計画]			
テーマ：運動機能			
1. 講義	生理学Ⅰ・Ⅱの復習		
2. 講義	筋電図（表面筋電図）とは何か		
3. 講義	筋電図の測定・解析方法：動作筋電図		
4. 実習	筋電図測定	(A) 動作筋電図	(1) 主働筋・拮抗筋の活動
5. //	//	//	(2) 筋力と筋電図の関係
6. //	//	//	(3) 筋疲労と表面筋電図波形
7. //	//	//	レポート作成
8. //	//	//	総合討論
9. 講義	筋電図の測定・解析方法：誘発筋電図		
10. 実習	//	(B) 誘発筋電図	(1) M波の記録
11. //	//	//	(2) 運動神経線維の伝導速度
12. //	//	//	//
13. //	//	//	レポート作成
14. //	//	//	総合討論
15. 全体のまとめ			
[教科書]			
実習書を配布する。			
[参考図書]			
1. 岡田隆夫：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学第6版、医学書院、2023年			
2. 医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 7 脳・神経第2版、メディックメディア、2017年			
[授業方法]			
1. 講義：小テストを含む。 2. 実習：レポート作成等を含む。			
[成績評価方法]			
1. 小テスト 30% 2. レポート 70%			

科目名	運 動 学 演 習	学年・学期	2学年・通 年
担当講師	田淵 充勇・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
理学療法士は障害を有した患者の異常運動パターンについて多角的に分析を試みる必要があるが、なかでも運動学・運動力学的に分析し、問題点の抽出と治療計画を立てることは極めて重要なプロセスである。ここでは、目視的で定性的な運動・動作分析手法と共に運動学および運動力学面から定量的に解析するために必要な基礎的知識を身につけ、最終学年における臨床実習、卒業研究計画に結びつけるようにする。			
[授業の到達目標]			
1. 各姿勢を観察する上での知識の理解と実践 2. 各動作を観察する上での知識の理解と実践 3. 姿勢、動作ともに観察事項をレポートにまとめる			
[授業計画]			
回	内容		
1	観察事項の総論（姿勢・動作）		
2	背臥位：理解・観察・演習		
3	背臥位：まとめ，坐位：理解・観察・演習		
4	坐位：まとめ，立位：理解・観察・演習		
5	立位：まとめ		
6	寝返り動作：理解・観察・演習		
7	寝返り動作：まとめ，起き上がり動作：理解・観察・演習		
8	起き上がり動作：まとめ，立ち上がり動作：理解・観察 1		
9	立ち上がり動作：理解・観察 2・演習		
10	立ち上がり動作：まとめ，歩行：理解・観察 1		
11	歩行：理解・観察 2・演習		
12	歩行：まとめ		
13	運動制御と筋電図①		
14	運動制御と筋電図②		
15	単位認定テスト		
[教科書]			
人間の運動学 （協同医書出版社） ※プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
『基礎運動学』中村隆一、齋藤宏、長崎浩・著（医歯薬出版） 『臨床運動学』中村隆一、齋藤宏・著（医歯薬出版） 『観察による歩行分析』月城慶一、他・訳（医学書院）			
[授業方法]			
講義，演習及び実習			
[成績評価方法]			
演習（田淵）：40点，単位認定テスト：竹林（20点），田淵（40点）合計：100点			

専門分野

目次

基礎理学療法学

理学療法基礎セミナー 2 - ⑭

理学療法評価学

理学療法評価学Ⅳ 2 - ⑮

理学療法評価学Ⅴ 2 - ⑯

理学療法評価学演習 2 - ⑰

理学療法治療学

関節機能障害理学療法学 2 - ⑱

一般外傷理学療法学 2 - ⑲

スポーツ外傷理学療法学 2 - ⑳

末梢神経障害理学療法学 2 - ㉑

脊髄障害理学療法学 2 - ㉒

脳障害理学療法学Ⅰ 2 - ㉓

脳障害理学療法学Ⅱ 2 - ㉔

脳障害理学療法学Ⅲ 2 - ㉕

小児理学療法学 2 - ㉖

呼吸器障害理学療法学 2 - ㉗

循環器障害理学療法学 2 - ㉘

物理療法学 2 - ㉙

義肢学 2 - ㉚

装具学 2 - ㉛

日常生活動作学 2 - ㉜

運動療法技術学 2 - ㉝

認知神経リハビリテーション学 2 - ㉞

地域理学療法学

地域リハビリテーション学Ⅰ 2 - ㉟

地域リハビリテーション学Ⅱ 2 - ㊱

生活環境論 2 - ㊲

臨床実習

臨床評価実習Ⅰ 2 - ㊳

臨床評価実習Ⅱ 2 - ㊴

科目名	理学療法基礎セミナーⅠ	学年・学期	2学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
1 年次に修得した理学療法基礎医学・臨床医学分野の解剖学、生理学、運動学等、復習を通して確実な知識とし、理解を深める。			
[授業の到達目標]			
1. 骨学・関節学の基本事項を理解する 2. 筋肉学の基本事項を理解する 3. 上肢・顔面の筋名称、作用について理解する 4. 下肢・体幹の筋名称、作用について理解する			
[授業内容]			
1. 上肢(肩甲帯)の筋名称、作用 2. 上肢(肩関節)の筋名称、作用 3. 上肢(肘関節・前腕)の筋名称、作用 4. 上肢(手)の筋名称、作用 5. 顔面の筋名称、作用 6. 下肢(股関節)の筋名称、作用 7. 下肢(膝関節)の筋名称、作用 8. 下肢(足関節・足)の筋名称、作用 9. 体幹の筋名称、作用 10. 筋名称・作用のまとめ 11. 骨の構造、骨名称 12. 関節の構造と種類 13. 骨格筋の構造 14. 神経の構造と機能、中枢神経と末梢神経 15. テスト			
[教科書]			
生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理(第3版) カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H.マティーニ著 西村書店 新・徒手筋力検査法（協同医書出版社）他、1年次に使用した関連教科書			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 演習等			
[成績評価方法]			
上肢(35点)、下肢(35点)、骨関節(15点)、骨格筋・神経(15点) 全体100点として評定する			

科目名	理学療法評価学Ⅳ	学年・学期	2学年・前期
担当講師	園田 義顕	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
臨床において必要となる各種の検査・測定のうち、1，失調・固縮・痙縮に対する運動機能検査、2，脳神経検査、3，片麻痺運動機能、4，協調性検査を中心として、各評価に必要な学問背景の講義と検査の実技を行う。			
[授業の到達目標]			
1.脳神経の理解と検査の実践ができる。 2.片麻痺運動機能の理解と検査の実践ができる。 3.協調性障害の理解と検査の実践ができる。			
[授業計画]			
回	内容		
1	中枢神経疾患の運動機能検査		
2	失調症の臨床症状と検査		
3	固縮の臨床症状と検査		
4	痙縮の臨床症状と検査		
5	脳神経検査Ⅰ～Ⅵ		
6	脳神経検査Ⅶ～Ⅻ		
7	上肢の協調性検査		
8	下肢・体幹の協調性検査		
9	その他の身体部位の協調性検査		
10	片麻痺運動機能検査（BRS）		
11	片麻痺運動機能検査（12段階評価）		
12	片麻痺運動機能検査（FMA）		
13	片麻痺運動機能検査（SIAS）		
14	各種検査の記載方法と判定方法		
15	テスト		
[教科書]			
『理学療法評価学』松澤 正著（金原出版） 『ベッドサイドの神経の診かた』田崎義昭・斉藤佳雄著（南山堂） プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
『PT 評価 ポケット手帳』（ヒューマン・プレス） 『標準理学療法学シリーズ：理学療法評価学』奈良 勲監修（医学書院） 『リハビリテーションにおける評価 ver.2』米本恭三編（医歯薬出版）			
[授業方法]			
講義および実技			
[成績評価方法]			
授業内で実施する実技テスト（20%）、筆記テスト（80%）の合計とする。			

科目名	理学療法評価学Ⅴ	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	田淵 充勇	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
整形外科的検査の理解、および検査の実践を習得する			
[授業の到達目標]			
1. 整形外科的検査に必要な知識の理解 2. 整形外科的検査に必要な技術の習得 3. 各疾患と必要な整形外科的検査の整理			
[授業計画]			
回	内容		
1	検査の信頼性 1		
2	検査の信頼性 2		
3	整形外科的検査（腰仙部）		
4	整形外科的検査（股関節）		
5	整形外科的検査（膝関節 1）		
6	整形外科的検査（膝関節 2）		
7	整形外科的検査（足関節）		
8	整形外科的検査（肩関節）		
9	整形外科的検査（肘関節）		
10	整形外科的検査（手関節）		
11	整形外科的検査（頸部）		
12	国家試験問題の実践		
13	演習（胸郭出口症候群）発表と実践		
14	まとめ		
15	単位認定テスト		
[教科書]			
『理学療法評価学』松澤 正著（金原出版） 『臨床実習とケーススタディ 第3版』 医学書院 ＊プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
・リハビリテーション基礎評価学			

科目名	理学療法評価学演習	学年・学期	2学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
2年次に実施する臨床評価実習Ⅰ・Ⅱとリンクして、それぞれの開始前に必要な各種疾患に対する評価方法の基本的な知識について理解しその実践ができるように、実習開始前 OSCE の位置付とする。 合わせて、指定された Paper Patient の疾患特性、理学療法評価過程について取り組み、評価結果の統合と解釈、治療プログラム立案を実施する。			
[授業の到達目標]			
1. 基本的な疾患の病態を理解し説明できる 2. 疾患に必要な理学療法評価項目を挙げ、その目的について説明し実践できる 3. 疾患に必要な理学療法評価ならびに結果の解釈、治療プログラム立案ができる			
[授業計画]			
1. 理学療法評価に関するテスト(臨床評価実習Ⅰ・開始前 CBT 位置付け) 2. 臨床評価実習Ⅰ前 OSCE 対策 ・バイタルサイン(問診) ・形態計測 3. 臨床評価実習Ⅰ前 OSCE 対策 ・ROM ・MMT 4. 臨床評価実習Ⅰ前 OSCE 対策 ・感覚 ・反射 5. 臨床評価実習Ⅰ前 OSCE 6. 臨床評価実習Ⅰ前 OSCE 7. 臨床評価実習Ⅰ終了報告会 8. 理学療法評価に関するテスト(臨床評価実習Ⅱ・開始前 CBT 位置付け) 9. 臨床評価実習Ⅱ前 OSCE 対策 ・バイタルサイン ・形態計測 ・ROM 10.臨床評価実習Ⅱ前 OSCE 対策 ・MMT ・感覚 ・反射 11.臨床評価実習Ⅱ前 OSCE 対策 ・筋緊張 ・バランス ・中枢疾患運動機能・協調性 12.臨床評価実習Ⅱ前 OSCE 13.臨床評価実習Ⅱ前 OSCE 14.臨床評価実習Ⅱ終了報告会 15.疾患に対する評価過程の理解 ・疾患の選択→疾患概要の決定→評価項目の選定→評価結果の統合と解釈→問題点抽出→治療プログラム立案→考察			
[教科書]			
理学療法評価学 松澤 正著（金原出版） 新・徒手筋力検査法第10版 （協同医書出版社） ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭・斉藤佳雄著（南山堂） 『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディ』鶴見隆正編（医学書院）			
[授業方法]			
講義 実技 演習			
[成績評価方法]			
実習開始前テスト、OSCE対策講義、OSCE、実習終了報告課題、プレゼンテーション、出席状況等を点数化し、全体を100点として評定する			

科目名	関節機能障害理学療法学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	宮内 博雄・薦田 昭宏	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
<u>関節リウマチ（宮内）</u>		<u>変形性関節症（薦田）</u>	
[授業内容(概要)] 運動器疾患における関節リウマチに対する治療のなかでのリハビリテーションの位置づけを理解させる。		[授業内容(概要)] 臨床で多く経験する変形性関節症(膝関節・股関節)の構造的障害ならびに機能的障害を捉え、理学療法の評価ならびに治療を理解させる。	
[授業の到達目標] 1. 関節リウマチの病態の理解 2. 関節リウマチの評価の理解 3. 関節リウマチの治療の理解		[授業の到達目標] 1. 変形性関節症の病態理解 2. 変形性関節症の評価の理解 3. 変形性関節症の治療の理解	
[授業計画] 1. 関節リウマチの総論 2. 関節リウマチの病態 3. 関節リウマチの症状 4. 関節リウマチの評価 5. 関節リウマチの治療 6. 関節リウマチのリハビリテーション① 7. 関節リウマチのリハビリテーション②		[授業計画] 1. 関節機能障害の概論 2. 変形性股関節症の病態 3. 変形性股関節症の評価 4. 変形性股関節症のリハビリテーション 5. 変形性股関節症の病態 6. 変形性股関節症の評価 7. 変形性股関節症のリハビリテーション	
全体 15. 試験			
[教科書] 教科書指定なし プリント等資料を随時配布		[教科書] 教科書指定なし プリント等資料を随時配布	
[参考図書] 標準整形外科学 鳥栖岳彦 国分正一編集 医学書院			
[授業方法] 講義 実技 スライド			
[成績評価方法] 宮内担当単位認定テスト 50 点と薦田担当単位認定テスト 50 点の合計 100 点とする			

科目名	一般外傷理学療法学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
この授業では、転倒や交通事故などの外傷における整形外科疾患（特に骨折）に対する基本的な疾病や病態、そしてその回復機序にもとに、理学療法に係わる評価や理学療法の実施に関する事項について学んでいく。			
[授業の到達目標]			
1. 転倒や交通事故などの外傷における疾患やその病態を理解する。 2. 外傷後における骨折や靱帯などの回復機序を理解する。 3. 外傷後の整形外科疾患（特に骨折）に対する評価や理学療法の展開について理解する。			
[授業計画]			
回	内容		
1	外傷総論、骨折総論（分類・症状・合併症、治療）		
2	骨折総論（分類・症状・合併症、治療）		
3	組織の修復過程		
4	骨折患者に対する理学療法評価①		
5	骨折患者に対する理学療法評価②		
6	骨折患者に対する理学療法評価③		
7	骨折患者に対する理学療法アプローチ（総論）		
8	各論：上肢の骨折		
9	各論：上肢の骨折		
10	各論；下肢の骨折		
11	各論：下肢の骨折		
12	各論：脊柱の骨折		
13	演習：骨折症例に関する臨床思考①		
14	演習：骨折症例に関する臨床思考②		
15	定期試験		
[教科書]			
『こんなときどうする!?整形外科術後リハビリテーションのすすめかた』山村恵他・監修（医学書院） 『標準整形外科学』鳥巢岳彦、国分正一・総編集（医学書院） ※プリント資料を適宜配布			
[参考図書]			
『骨折の治療指針とリハビリテーション』酒井昭典、佐伯覚・編集（南江堂） 『機能障害科学入門』千住秀明・監修（神陵文庫） 『運動療法に役立つ 単純 X 線像の読み方』青木隆明・監修（メディカルビュー）			
[授業方法]			
講義，演習，実習			
[成績評価方法]			
出席状況（5点）、授業、演習・実習態度（5点）、レポート（10点）、テスト（80点）の合計とする			

科目名	スポーツ外傷理学療法学	学年・学期	2学年・通 年
担当講師	大久保 吏司・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
本授業では、主なスポーツ外傷・障害について、スポーツ動作との関連性を考察し、それに基づいた基本的な理学療法を実技も踏まえて概説する。また障がい者スポーツについても車いすテニスや車いすバスケットボールなどのルール、主な外傷・障害について説明する。			
[授業の到達目標]			
1. スポーツ外傷・障害の受傷機序について説明できる。			
2. スポーツ外傷・障害の評価について説明できる。			
3. スポーツ外傷・障害の基本的理学療法について説明できる。			
[授業計画]			
講義①成長期における身体の特徴とスポーツ外傷・障害			
講義②体幹のスポーツ外傷・障害に対する評価・アプローチについて			
講義③頭頸部外傷について			
(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 大久保 吏司)			
講義④トップアスリートに対するフィジカル・マネージメントについて①			
講義⑤トップアスリートに対するフィジカル・マネージメントについて②			
講義⑥プロサッカー選手に対するトレーナー活動の紹介			
(元ヴィッセル神戸 トレーナー 春日野会病院 リハビリテーション部 戎 健吾)			
講義⑦下肢のスポーツ外傷・障害に対する評価・アプローチについて			
講義⑧育成年代及びプロバスケットボールチームでのトレーナー活動の紹介			
講義⑨スポーツ復帰のための競技特性の捉え方			
(兵庫県立リハビリテーション中央病院 瀧口 耕平)			
講義⑩上肢のスポーツ外傷・障害に対する評価・アプローチについて ～解剖～			
講義⑪上肢のスポーツ外傷・障害に対する評価・アプローチについて ～評価～			
講義⑫上肢のスポーツ外傷・障害に対する評価・アプローチについて ～アプローチの実際～			
(姫路ハーベスト医療福祉専門学校 古川 裕之)			
講義⑬障がい者スポーツのスポーツ外傷・障害について			
講義⑭各障がい者へのスポーツ指導上の留意点と工夫			
講義⑮障がい者スポーツの実際～車椅子テニス、車椅子バスケ等について～			
(神戸大学医学部附属病院 リハビリテーション部 木田 晃弘)			
[教科書] スライド資料等のプリントを随時配布			
[参考図書] 陶山哲夫 監修：スポーツ理学療法学（第3版） メディカルビュー 2023			
山下敏彦 編集：スポーツ傷害のリハビリテーション（第2版）金原出版 2017			
[授業方法]			
講義および実技			
[成績評価方法]			
・成績は定期試験により評価する（100％）。			

科目名	末梢神経障害理学療法学	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	田淵 充勇・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
末梢神経障害の病態、臨床症状、回復機序およびそれぞれのリハビリテーションについて理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 末梢神経障害の臨床症状、回復機序の理解			
2. 各末梢神経障害の病態の理解			
3. 各末梢神経障害のリハビリテーションの理解			
[授業計画]			
回	内容		
1	総論		
2	腕神経叢障害		
3	正中神経障害、演習		
4	尺骨神経障害、演習		
5	橈骨神経障害、演習		
6	下肢の末梢神経障害、演習		
7	骨折の合併症としての末梢神経障害		
8	脳神経の障害		
9	顔面神経麻痺		
10	ギランバレー症候群		
11	自律神経障害		
12	運動療法		
13	国家試験問題の実践		
14	まとめ		
15	単位認定テスト		
[教科書]			
関係プリント資料を随時配布			
[参考図書]			
末梢神経障害 (メジカルビュー社)			
理学療法ハンドブック (協同医書出版)			
標準整形外科学 (医学書院)			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
小テスト：10点 演習：20点 単位認定テスト：70点			

科目名	脊髄障害理学療法学	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	高橋 昭彦・他	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
特有な症状を呈する脊髄損傷患者の病態について、合併症を含めその発生メカニズムやリスクを解説する。脊髄損傷の理学療法の遂行に必要な評価や運動療法の手法について、必要に応じ実際の映像の視聴や実技指導を組み入れながら実践的な能力が習得できるように授業を展開する。さらに脊髄損傷患者の社会参加に向けて、車いすや補助具・環境整備・公的扶助について最新の知見を交えて解説する。			
[授業の到達目標]			
1. 脊髄損傷の臨床症状を理解する 2. 脊髄損傷の合併症を理解する 3. 脊髄損傷の評価方法を理解する 3. 脊髄損傷の運動療法を理解する 5. 脊髄損傷の車椅子・装具・自助具・住環境・公的扶助を理解する			
[授業内容]			
1. 脊髄損傷とはどのような疾患か（脊髄損傷患者の残存機能と生活上の問題） 2. 脊髄損傷の評価（Zancolli） 3. 脊髄損傷の評価（ASIA） 4. 急性期の合併症とそのマネジメント 5. 慢性期の合併症とそのマネジメント 6. 呼吸器合併症と肺理学療法 7. 褥創管理と理学療法 8. 排尿管理と理学療法 9. 骨折・化骨管理と理学療法 10. 皮膚感染管理と理学療法 11. 脊髄損傷の床上動作 12. 脊髄損傷の車椅子上動作・歩行動作 13. 脊髄損傷の住環境 14. 脊髄損傷の公的扶助 15. 試験			
[教科書]			
脊髄損傷リハビリテーションマニュアル 第3版 （医学書院） 徒手筋力検査（MMT）			
[参考図書]			
脊髄損傷の理学療法 （医歯薬出版） ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） 標準整形外科学 鳥巢岳彦 国分正一総編集 （医学書院）			
[授業方法]			
講義・実技			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 10% 2. テスト 90%			

科目名	脳障害理学療法学Ⅰ	学年・学期	2 学年・前 期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
中枢神経障害の機能特性と障害構造を理解する。 脳卒中片麻痺の障害像を理解し理学療法評価の基本事項を理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 脳の機能特性について理解する 2. 脳卒中片麻痺の障害特性を理解する 3. 脳卒中片麻痺の理学療法評価を理解し、実践できるようにする			
[授業計画]			
1. 中枢神経系の基本構造と機能特性① 2. 中枢神経系の基本構造と機能特性② 3. 脳卒中片麻痺の障害特性―錐体路障害― 4. 脳卒中片麻痺の障害特性―病的反射と評価― 5. 脳卒中片麻痺の障害特性―陽性徴候と陰性徴候― 6. 脳卒中片麻痺の障害特性―共同運動と評価― 7. 脳卒中片麻痺の障害特性―連合反応と評価― 8. 脳卒中片麻痺の障害特性―感覚障害と評価― 9. 脳卒中片麻痺の障害特性―異常姿勢反射― 10. 脳卒中片麻痺の障害特性―右半球/左半球障害― 11. 脳卒中片麻痺の障害特性―高次脳機能障害・USN― 12. 脳卒中片麻痺の障害特性―高次脳機能障害・失行― 13. 脳卒中片麻痺の障害特性―高次脳機能障害・失語― 14. 脳卒中片麻痺の障害特性―その他の合併症― 15. テスト			
[教科書]			
片麻痺 協同医書出版 資料配布			
[参考図書]			
ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 理学療法ハンドブック 協同医書出版 リハビリテーションルネサンス 春秋社			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
出席状況 5%とテスト 95%の合計 100%とする			

科目名	脳障害理学療法学Ⅱ	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
脳卒中片麻痺の障害特性を理解し、病期別理学療法の基本事項を理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 脳卒中片麻痺に対する急性期理学療法について理解し、実践できる			
2. 脳卒中片麻痺に対する回復期理学療法について理解し、実践できる			
3. 脳卒中片麻痺に対する理学療法の流れについて理解し、実践できる			
[授業計画]			
1. 脳卒中片麻痺に対する急性期理学療法について理解し、実践できる			
2. 脳卒中片麻痺に対する急性期理学療法におけるリスク管理について理解し			
3. 脳卒中片麻痺に対するベッドサイドアプローチについて理解し、実践できる			
4. 脳卒中片麻痺に対する回復期理学療法(ROMex、起居動作)について理解し、実践できる			
5. 脳卒中片麻痺に対する回復期理学療法(座位)について理解し、実践できる			
6. 脳卒中片麻痺に対する回復期理学療法(立位・歩行)について理解し、実践できる			
7. 脳卒中片麻痺に対する回復期理学療法(歩行分析)について理解し、実践できる			
8. 脳卒中片麻痺に対する回復期理学療法(上肢)について理解し、実践できる			
9. 脳卒中片麻痺に対する回復期理学療法(下肢)について理解し、実践できる			
10. 脳卒中片麻痺に対する回復期理学療法(体幹)について理解し、実践できる			
11. 脳卒中片麻痺の動作分析①について理解し、実践できる			
12. 脳卒中片麻痺の動作分析②について理解し、実践できる			
13. 脳卒中片麻痺の日常生活動作指導について理解し、実践できる			
14. 脳卒中片麻痺に対する理学療法について理解し、実践できる			
15. テスト			
[教科書]			
片麻痺	協同医書出版		
資料配布			
[参考図書]			
ベッドサイドの神経の診かた	南山堂		
理学療法ハンドブック	協同医書出版		
リハビリテーションルネサンス	春秋社		
[授業方法]			
講義	実習		
[成績評価方法]			
出席状況 5%とテスト 95%の合計 100%とする			

科目名	脳障害理学療法学Ⅲ	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	園田 義顕	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
Parkinson 病および運動失調症など神経内科系疾患の運動障害像・病理背景について理解し、評価と運動療法の基本原理と治療体系について解説する。また、運動療法を行う上で必要な運動・姿勢制御理論及び脳科学の基礎知見を参照し、中枢神経疾患に対するリハビリテーションの理論と実践を考える。			
[授業の到達目標]			
1.神経内科系疾患の障害像と病理背景を理解する。 2.神経内科系疾患の評価と運動療法を理解する。 3.指定難病における多様な制度とその関わりを理解する。			
[授業計画]			
回	内容		
1	パーキンソン病の病態と障害像		
2	パーキンソン病に対する評価と運動療法		
3	運動失調症の病態と障害像		
4	運動失調性に対する評価と運動療法		
5	筋萎縮性側索硬化症の病態と理学療法		
6	多発性硬化症の病態と理学療法		
7	ギラン・バレー症候群の病態と理学療法		
8	神経筋接合部疾患の病態と理学療法		
9	パーキンソン病関連疾患の病態と理学療法		
10	脊髄小脳変性症の病態と理学療法		
11	筋ジストロフィーの病態と理学療法		
12	ニューロパチーの病態と理学療法		
13	指定難病を取り巻く制度		
14	EBM と NBM		
15	テスト		
[教科書]			
標準理学療法学「神経理学療法学」 医学書院			
[参考図書]			
「理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ」 中山書店 「神経局在診断」 Mathias Bahr, Michael Frotscher 著・花北順哉 訳 文光堂 「神経障害系理学療法学」 丸山仁司 編 医歯薬出版株式会社 「中枢神経系理学療法学」 柳澤健 編 メジカルビュー社			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
テスト（100点）			

科目名	小児理学療法学	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	宮本 謙三	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
小児の正常運動発達と姿勢反射について理解し、運動機能発達障害では代表的な小児疾患の障害の基本的理解から理学療法の実際、その理論と技術および最新の知見について構成している。			
[授業の到達目標]			
1．発達期における理学療法の特殊性を指摘することができる 2．姿勢反射の発達の变化と運動発達を関連づけて説明ができる 3．脳性麻痺を分類し、それぞれの特徴を説明することができる 4．類型ごとの理学療法の原則をあげることができる 5．その他の小児疾患および理学療法について理解することができる			
[授業計画]			
1．発達学概論（遺伝と環境／成熟と学習） 2．発達学概論（発達の原則／形態発達） 3．発達学概論（知的発達／発達理論） 4．発達学概論（運動発達／姿勢反射） 5．脳性麻痺概論（疫学・病型分類等） 6．脳性麻痺概論（合併症／治療の変遷） 7．脳性麻痺の理学療法評価 8．脳性麻痺の理学療法評価 9．脳性麻痺の医学的治療（手術療法・装具療法） 10．脳性麻痺の理学療法の実際（痙直型・アトローゼ型） 11．二分脊椎症・ダウン症候群の理学療法 12．小児神経筋疾患（筋ジストロフィー）の理学療法 13．自閉症・学習障害・小児遺伝疾患 14．発達障害ビデオ視聴・練習問題 15．テスト			
[教科書]			
1．小児理学療法テキスト 細田多穂 南江堂（2024 改訂第4版）			
[参考図書]			
1．脳性麻痺の反射検査 M.R.Fiorentino 医歯薬出版			
[授業方法]			
講義 実技（実習）			
[成績評価方法]			
出席状況 5%とテスト 95%の合計を評定とする。			

科目名	呼吸器障害理学療法学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	宅間 豊	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
呼吸器系・心循環器系・筋代謝系の調和システムを基に慢性呼吸器疾患の障害構造を理解する。 そして、慢性呼吸器疾患に適用する理学療法評価法および治療と援助の専門的知識と技術を習得する。			
[授業の到達目標]			
1. 呼吸器系・心循環器系・筋代謝系の調和システムと慢性呼吸器疾患の障害構造を理解できる 2. 慢性呼吸器疾患に対する理学療法評価の目的と方法を説明できる 3. 慢性呼吸器疾患に対する理学療法（治療，援助）の目的と方法を説明できる			
[授業計画]			
1. 呼吸器系の構造と機能 1（呼吸とは、呼吸器系の基本構造） 2. 呼吸器系の構造と機能 2（換気の仕組み） 3. 呼吸器系の構造と機能 3（肺でのガス交換の仕組み） 4. 呼吸器系の構造と機能 4（血液による O ₂ と CO ₂ の運搬、呼吸運動の神経性調節） 5. 呼吸機能障害の評価 1（呼吸様式、胸部脊柱変形） 6. 呼吸機能障害の評価 2（聴診、肺機能検査、呼吸能力） 7. 呼吸機能障害の評価 3（動脈血ガス分析所見、経皮的酸素飽和度） 8. 呼吸機能障害の評価 4（運動負荷試験、栄養状態） 9. 呼吸理学療法 1（呼吸リハビリテーションとは、呼吸理学療法プログラム） 10. 呼吸理学療法 2（リラクセーション） 11. 呼吸理学療法 3（呼吸練習） 12. 呼吸理学療法 4（胸部可動域運動、呼吸筋トレーニング） 13. 呼吸理学療法 5（排痰法） 14. 呼吸理学療法 6（運動療法） 15. 定期試験			
[教科書]			
1. 動画でわかる呼吸リハビリテーション第 5 版 高橋仁美・宮川哲夫・他 編（中山書店） 2. プリントを随時配布			
[参考図書]			
1. リハ実践テクニック呼吸ケア第 4 版 塩谷隆信・高橋仁美 編 メジカルビュー社 2011 2. 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第 2 版 石川朗・玉木彰 編 中山書店 2010			
[授業方法]			
講義	実技	パワーポイント	動画
[成績評価方法]			
出席状況 5%とテスト 95%の合計を評定とする			

科目名	循環器障害理学療法学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	前田 秀博	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
スライド資料配布のうえ、必要に応じ動画視聴を交えて説明しながら、解剖生理と病態、医学的検査、治療、理学的評価、運動療法、リスク管理や生活指導に関する知識技術を伝えて理解を深める。時代に即し、理学療法士に求められる基本的臨床実践能力を高める。			
[授業の到達目標]			
1. 内部障害と循環系（脈管系）の位置づけを知り、心血管系の構造や機能および身体活動における生理的な調節を理解する。			
2. 代表的な循環器疾患の病態に関する基礎知識と検査所見を踏まえ、理学療法ならびに評価を学び、日常生活・両立支援におけるリスク管理と留意点を理解する。			
3. 関連した各種ガイドラインを元に運動療法場面で臨床応用できる基本的な知識を得る。			
[授業計画]			
回	内 容		
1	内部障害と循環系、心臓リハのエビデンス		
2	胸郭内の解剖と循環生理～呼吸、循環、血液、神経調節、骨格筋～		
3	酸搬送能の低下と酸素療法、人工呼吸療法		
4	運動生理学の基礎知識、リスク管理に重要な観察ポイント		
5	虚血性心疾患の病態と急性期治療～検査、血行再建、補助循環、リハビリプログラム～		
6	急性非代償性心不全の病態と急性期治療①～背景疾患、症状、分類、検査、薬物療法、リハビリプログラム～		
7	急性非代償性心不全の病態と急性期治療②～進行・重症度、経過、生活指導、遠隔モニタリング～		
8	急性非代償性心不全の病態と急性期治療③～睡眠呼吸障害、Muscle Wasting、運動療法の成果、呼吸筋トレーニング、緩和ケア～		
9	開心術後の病態と急性期治療①～術式、手術の影響と生理的变化、術後合併症とPICS、リハビリプログラム、早期離床～		
10	開心術後の病態と急性期治療②～理学療法評価、TAVI、SHD インターベンション～		
11	大血管疾患の病態と急性期治療～大動脈解離と大動脈瘤、末梢動脈疾患、検査、合併症、保存・観血的治療、リスク管理、リハビリプログラム、～		
12	ECG の基礎と判読～虚血変化、不整脈（期外収縮、ブロック）、ペースメーカー～		
13	栄養に関する基礎知識と心血管疾患～飢餓・侵襲・悪液質、フレイルとサルコペニア、栄養評価（SGA と ODA）、予後との関係～		
14	心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン、ADL 指導		
15	試験		
[教科書] ビジュアル実践リハ呼吸・心臓リハビリテーション 第3版 居村茂幸／監，高橋哲也，間瀬教史／著 羊土社			
[参考図書] 循環器リハビリテーションの理論と技術 改訂第2版（増田 卓・松永篤彦 編 メジカルビュー社			
[授業方法] 講義 パワーポイント 動画			
[成績評価方法] ①授業態度 15 点、単位認定テスト 85 点の合計 100 点とする			

科目名	物 理 療 法 学	学年・学期	2学年・前 期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
この授業では、物理療法に関する基本的な事項から、物理療法の適応に係る病態の理解、具体的な物理療法（特に電気刺激療法、電磁波療法、超音波療法、光線療法）の実践方法について学んでいく。			
[授業の到達目標]			
1. 電気療法について理解する。 2. 低周波、高周波、超音波、光線療法について理解する。 3. 各種器具の実施が可能となる。			
[授業計画]			
回	内容		
1	電気刺激療法 総論		
2	電気刺激療法 原理		
3	電気刺激療法 原理、適応と禁忌		
4	電気診断学		
5	TENS、干渉波、FES		
6	電磁波療法 1		
7	電磁波療法 2		
8	超音波療法 1		
9	超音波療法 2		
10	超音波療法 3／光線療法		
11	光線療法		
12	物理療法実習		
13	物理療法実習		
14	物理療法実習／まとめ		
15	定期試験		
[教科書]			
『物理療法 第2版』千住秀明・監修、沖田実・編集（神陵文庫）			
[参考図書]			
『理学療法ハンドブック 第2巻治療アプローチ』細田多穂・他編（協同医書出版社）			
『EBM 物理療法 原著第2版』Michelle H. Cameron・編著、渡部一郎・監訳（医歯薬出版株式会社）			
『エビデンスから身につける物理療法 第2版』庄本康治（羊土社）			
『機能障害科学入門』千住秀明・監修（神陵文庫）			
[授業方法]			
講義 演習 実習			
[成績評価方法]			
出席状況（5点）、授業、演習・実習態度（5点）、レポート（10点）、テスト（80点）の合計とする			

科目名	義肢学	学年・学期	2学年・通年
担当講師	鶴見 隆正	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
義肢は、四肢を切断された人にとって、歩行やADLを再び円滑に遂行する上で不可欠なものである。切断者のリハビリテーションにおける理学療法の位置付けと理学療法士の役割を理解し、義肢の種類、構造、適合判定、力学的理論と義肢操作の実際について基本的な知識と技術を学習する。また切断者の理学療法評価と義肢装着訓練については演習的に展開する。			
[授業の到達目標]			
1.切断のリハビリテーション・理学療法士の役割について理解する 2.切断術(下肢切断部位と機能的特徴)について理解する。 3.義足(大腿義足・下腿義足・その他の義足)について理解する。			
[授業計画]			
1．切断のリハビリテーション・理学療法士の役割 2．義肢の歴史、切断原因と切断手技 3．術後の断端管理と理学療法 4．大腿義足ソケット分類、ソケット適合 5．大腿義足のアライメント理論、調整法の実技 6．膝継手の機能と適応、アライメント調整 7．足継手の機能と適応、アライメント調整 8．下腿切断原因、ソケット分類 9．下腿ソケットの形状と機能 10．膝離断と膝義足、サイム切断 11．股関節離断とカナダ式股義足 12．両側下肢切断の義足と理学療法 13．下肢切断の評価 14．下肢切断の評価実習 15．下肢切断の理学療法プログラムと実習			
[教科書]			
義肢装具のチェックポイント 第9版 医学書院 臨床実習とケーススタディ 医学書院			
[参考図書]			
切断と義肢 沢村 誠志 医歯薬出版			
[授業方法]			
講義では、義肢のハード面、切断の理学療法についてスライド、資料を用いて解説し、一部は演習形式と断端評価等について実習を行う。			
[成績評価方法]			
出席率5%、テスト95%として評定する。			

科目名	装 具 学	学年・学期	2学年・前 期
担当講師	岡上 正弘	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
装具は、保存療法の有力な手段として、またリハビリテーション医学領域で重要な位置を占め、個々の装具について概念・適応・構成要素・チェックポイントについて構成している。 また、最近の傾向も踏まえ内容も追加する			
[授業の到達目標]			
1．装具の基本構造およびリハビリテーションにおける位置づけについて理解する 2．上肢装具、下肢装具、体幹装具の基礎と適合判定について理解する 3．疾患に特徴的な装具のチェックポイントを理解する			
[授業内容]			
1．下肢装具の意義と目的 2．下肢装具の分類と名称 3．金属支柱付長下肢装具 4．金属支柱付短下肢装具・プラスチック短下肢装具 5．膝装具 6．免荷装具 7．靴型装具 8．体幹装具の意義と目的 9．頸椎装具 10．胸腰仙椎装具 11．腰椎装具 12．上肢装具 13．疾患と装具① 14．疾患と装具② 15．テスト			
[教科書]			
義肢装具のチェックポイント（第9版） 医学書院			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
出席状況 5%と定期試験 95%を全体として評定する			

科目名	日常生活動作学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
障害者や高齢者にとって日常生活動作（ADL）の自立は重要であり、それに向けた介助量軽減について理解する事は、理学療法士の重要な役割となる。			
ADLの概念や範囲など基本的事項およびADL評価、移動補助具（杖・松葉杖・歩行器・車椅子）、基本姿勢と動作の基本的理解および移動動作について理解する。			
[授業の到達目標]			
1. ADLの概念および評価方法について理解する			
2. 移動補助具（杖・松葉杖・歩行器・車椅子）について理解する			
3. 基本姿勢と移動動作について理解する			
[授業計画]			
1. ADLの概念・範囲、障害とADL			
2. ADL評価(BI、FIM)			
3. ADL評価(BI、FIM)			
4. 移動補助具（杖・松葉杖・歩行器）			
5. 移動補助具（杖・松葉杖・歩行器）・実技演習			
6. 移動補助具（車椅子）			
7. 移動補助具（車椅子）・実技演習			
8. 移動補助具（車椅子）・実技演習			
9. 移動補助具（杖・松葉杖・歩行器・車椅子）・医療施設実技演習			
10. 移動補助具（杖・松葉杖・歩行器・車椅子）・医療施設実技演習			
11. 基本姿勢			
12. 移動動作(寝返り～起き上がり～座位)			
13. 移動動作(座位～立ち上がり～立位)			
14. 全体のまとめ			
15. テスト			
[教科書]			
日常生活動作学・生活環境学		医学書院	
新版 姿勢と動作		メヂカルフレンド社	
[参考図書]			
車いす・シーティング		はる書房	
移動補助具		金原出版	
実習 ADL/APDL		協同医書出版	
[授業方法]			
講義		実習	
[成績評価方法]			
出席状況・確認テスト 10%、課題レポート 10%、テスト 80%の合計 100%とする			

科目名	運動療法技術学	学年・学期	2 学年・後 期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
運動療法の実践には各疾患に応じた多くの技術を要する。 この授業では、演習・実技を通して、運動療法実践に必要な基本的な知識・技術を習得する。			
[授業の到達目標]			
1. 体幹・四肢の骨部位ならびに筋肉の触察できるようになる。 2. 各関節の構成運動ならびに副運動を実践できるようになる。			
[授業計画]			
回	内容		
1	オリエンテーション、触察の基本事項		
2	触察法：脊柱、体幹筋		
3	触察法：肩甲帯、頸部		
4	触察法：上肢		
5	触察法：骨盤帯		
6	触察法：大腿		
7	触察法：下腿、足部		
8	構成運動：足関節		
9	構成運動：膝関節		
10	構成運動：股関節		
11	構成運動：肩関節		
12	構成運動：肘、手関節		
13	副運動		
14	総まとめ		
15	定期試験		
[教科書]			
『あたらしい人体解剖学アトラス』 P.タンク 著（MEDSi） 『新・徒手筋力検査法第 10 版』 Dale Avers, Marybeth Brown 著（協同医書出版社）			
[参考図書]			
『Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて』 日高正巳・監訳（医歯薬出版） 『図解 運動療法ガイド』 内山靖、奈良勲・編集（文光堂） 『骨格筋の形と触察法』 河上敬介、磯貝香・編集（大峰閣） 『ID ストレッチング』 鈴木重行・編編（三輪書店）			
[授業方法]			
講義、演習、実技			
[成績評価方法]			
定期試験(50 点)、小テスト(40 点)、出席状況(5 点)、授業、演習・実技態度(5 点)の合計とする。			

科目名	認知神経リハビリテーション学	学年・学期	2 学年・後 期
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
脳科学の進歩状況について理解する。			
認知神経リハビリテーションの理論について理解し、基本技術を習得する。			
[授業の到達目標]			
1. 脳卒中片麻痺の理学療法の歴史的変遷について理解する			
2. 認知神経リハビリテーションの理論について理解する			
3. 認知神経リハビリテーションの基本技術を理解し、実践できる			
[授業計画]			
1. 脳卒中片麻痺の理学療法の歴史的変遷			
2. ファシリテーションテクニック			
3. ハルシュバーク法とボバース法			
4. 認知神経リハビリテーションの理論			
5. 知覚と運動			
6. 認知問題			
7. 上肢の認知問題①			
8. 上肢の認知問題②			
9. 下肢の認知問題①			
10. 下肢の認知問題②			
11. 上肢に対する認知神経リハビリテーションの実際			
12. 下肢に対する認知神経リハビリテーションの実際			
13. 体幹に対する認知神経リハビリテーションの実際			
14. 認知神経リハビリテーションの特徴			
15. 症例を通した認知神経リハビリテーションの実際			
[教科書]			
認知神経リハビリテーション入門 協同医書出版			
[参考図書]			
認知運動療法と道具 協同医書出版			
認知運動療法 運動機能再教育のパラダイム 協同医書出版			
認知運動療法入門 宮本省三・沖田一彦編 協同医書出版			
認知運動療法 Perfetti・宮本省三・沖田一彦著 協同医書出版			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
出席状況 10%、課題レポート 90%の合計 100%とする			

科目名	地域リハビリテーション学Ⅰ	学年・学期	2学年・前期
担当講師	佐藤 健三	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
1. 地域リハビリテーションの歴史と地域包括ケアシステム 2. 社会保障制度の概要とサービス種別（介護保険制度を中心に） 3. 生活期リハビリテーション（訪問リハビリテーションを中心に） 4. 生活環境支援 5. 生活環境支援事例検討			
[授業の到達目標]			
1.地域リハビリテーションの歴史からその必要性和今後の展望について理解する 2.主に介護保険サービス種別を知り、その中での理学療法士の役割認識を深める。 3.主に ADL に対する標準的な環境支援方法を知る			
[授業計画]			
回	内容		
1	地域リハビリ概論、歴史①		
2	地域リハビリ概論、歴史②		
3	介護保険制度、サービス		
4	起居動作演習		
5	生活期リハビリテーション		
6	基本動作演習		
7	ADL 環境調整		
8	基本動作演習		
9	ADL 環境調整①		
10	ADL 環境調整②		
11	ADL 環境調整③		
12	ADL 環境調整④		
13	外出～社会参加環境支援		
14	地域リハ関連国家試験問題対策		
15	試験		
[教科書]			
教科書指定なし プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
日常生活活動学・生活環境学（医学書院）／ 地域理学療法学(医学書院)			
[授業方法]			
講義 グループワーク 演習			
[成績評価方法]			
小テスト 10 点、単位認定テスト 90 点の合計 100 点とする。			

科目名	地域リハビリテーション学Ⅱ	学年・学期	2学年・通年
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
高齢者の身体機能・精神機能および高齢者に多い疾患について理解し、高齢者に対するリハビリテーションあり方について学ぶ。あわせて、介護保険制度を理解し、高齢者がどのように地域で生活できるような社会体制になっているのかを把握し、介護予防など理学療法士としての役割について学ぶ。 高齢者および障害者を取り巻く生活環境や余暇活動(スポーツなど)を理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 高齢者の身体機能・精神機能の変化および主要な老年症候群について理解する 2. 介護保険制度について理解し、地域高齢者の生活について理解する 3. 高齢者および障害者の生活環境や余暇活動について理解し、体験する			
[授業計画]			
1. 高齢者の身体機能・精神機能の変化① 2. 高齢者の身体機能・精神機能の変化② 3. 老年症候群の概説 4. 認知症に対するサポートの実際—認知症サポーター養成講座— 5. 高齢者のリハビリテーション 6. 介護保険制度を中心とした高齢者に関する保険制度の理解① 7. 介護保険制度を中心とした高齢者に関する保険制度の理解② 8. 介護予防における理学療法士の役割 9. 介護予防の実際～地域高齢者との交流～ 10. 高齢者および障害者を取り巻く生活環境と余暇活動(スポーツなど)の理解① 11. 余暇活動(スポーツなど)ボッチャ競技の理解 12. 余暇活動(スポーツ)体験—ボッチャ競技の実際・競技参加方法の理解— 13. 余暇活動(スポーツ)体験—ボッチャ競技の実際・競技へのサポート— 14. 余暇活動(スポーツ)体験—ボッチャ競技の実際・競技への取り組みの実際— 15. 余暇活動(スポーツ)体験—ボッチャ競技の実際・競技終了とサポートの振り返り—			
[教科書]			
資料配布			
[参考図書]			
『標準理学療法学・作業療法学：老年学』奈良 勲・鎌倉矩子監修 (医学書院)			
[授業方法]			
講義 演習 体験実習			
[成績評価方法]			
出席状況 10%、小テスト 60%、課題レポート 30%の合計を 100%として評定する			

科目名	生活環境論	学年・学期	2 学年・後 期
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
高齢者および障害者が安全かつ安心に自立した生活を送れる生活環境の整備や福祉用具などの理解するために必要な内容について学ぶ。合わせて、疾患別障害像を理解し、日常生活動作（ADL）の特徴および生活環境について学ぶ。			
[授業の到達目標]			
1. 生活環境整備や福祉用具の重要性について理解する 2. 疾患別障害像と ADL について理解する 3. 住環境整備の実際について考える			
[授業計画]			
1. 生活環境整備・福祉用具総論 2. 骨関節疾患(大腿骨頸部骨折)の障害像と ADL 3. 骨関節疾患(股 OA・膝 OA)の障害像と ADL 4. 骨関節疾患(RA)の障害像と ADL 5. 骨関節疾患の生活環境整備案の作成(段差、手すり、床材など) 6. 脳卒中片麻痺の障害像と ADL① 7. 脳卒中片麻痺の障害像と ADL② 8. 脳卒中片麻痺の生活環境整備案の作成(トイレ、手すり、附属品など) 9. 脊髄損傷の障害像と ADL① 10. 脊髄損傷の障害像と ADL② 11. 脊髄損傷の生活環境整備案の作成(浴室、構造、移乗など) 12. 訪問理学療法士から見た生活環境整備の実際① 13. 訪問理学療法士から見た生活環境整備の実際② 14. 生活環境整備のまとめ 15. テスト			
[教科書]			
日常生活動作学・生活環境学 医学書院			
[参考図書]			
リハビリテーション・ADL トレーニング 医歯薬出版 ADL とその周辺 医学書院 脊髄損傷マニュアル 医学書院			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
出席状況 5%、確認テスト 10%、レポート課題 15%、テスト 70%の合計 100%とする			

科目名	臨床評価実習Ⅰ	学年・学期	2学年・前期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
理学療法士として必要な態度やコミュニケーションの基本について学び、指定実習施設で患者を対象に理学療法評価を実践する。その背景には、患者の疾患特性を理解し、必要な評価項目の選定、目的など説明できる。合わせて、評価結果の問題点について分析する。 また、報告書には適切な医学用語を用いて記録・報告できるようにする。			
[授業の到達目標]			
1. 理学療法士として必要な態度、コミュニケーションの基本について理解する 2. 必要な理学療法評価の選定し、目的を説明し、実践できる 3. 適切な医学用語を用いて記録・報告できる			
[授業計画]			
実習開始前に学内でのオリエンテーション 実習第1日：指定実習施設での理学療法部門の見学 診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践、評価結果の分析 評価結果および実習内容の記録・報告 実習第2日：指定実習施設での理学療法部門の見学 診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践、評価結果の分析 評価結果および実習内容の記録・報告 実習第3日：指定実習施設での理学療法部門の見学 診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践、評価結果の分析 評価結果および実習内容の記録・報告 実習第4日：指定実習施設での理学療法部門の見学 診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践、評価結果の分析 評価結果および実習内容の記録・報告 実習第5日：指定実習施設での理学療法部門の見学 診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践、評価結果の分析 評価結果および実習内容の記録・報告 実習終了フィードバック			
[成績評価方法]			
出席状況、実習内容状況(臨床実習指導者と教員による状況確認)、実習指導者作成の到達度評価表、経験表コメント、学生作成の臨床体験報告書等を元に、学内で臨床評価実習Ⅰ単位認定会議を開催し評定する。			

科目名	臨床評価実習Ⅱ	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・90時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
臨床評価実習Ⅰで指導を受けた内容を元に、理学療法士として必要な態度や対応について学び、指定実習施設で患者を対象に理学療法評価を実践する。合わせて、評価結果の問題点について分析し、統合と解釈を加える過程を通じて理学療法プログラム立案への展開をはかる。 また、報告書には適切な医学用語を用いて記録・報告できるようにする。			
[授業の到達目標]			
1. 理学療法士として必要な態度や対応ができる 2. 必要な理学療法評価の選定し、目的を説明し、実践できる 3. 理学療法評価結果を分析し、統合と解釈を加える過程より理学療法プログラムを立案する 4. 適切な医学用語を用いて記録・報告できる			
[授業計画]			
実習開始前に学内でのオリエンテーション 実習第1日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、実習内容の記録・報告 実習第2日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、実習内容の記録・報告 実習第3日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、実習内容の記録・報告 実習第4日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、実習内容の記録・報告 実習第5日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、実習内容の記録・報告 実習第6日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、プログラム立案、実習内容の記録・報告 実習第7日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、プログラム立案、実習内容の記録・報告 実習第8日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、プログラム立案、実習内容の記録・報告 実習第9日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、プログラム立案、実習内容の記録・報告 実習第10日：診療参加型実習による理学療法全般の理解、障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践・評価結果の統合と解釈、プログラム立案、実習内容の記録・報告 実習終了フィードバック			
[成績評価方法]			
出席状況、実習内容状況(臨床実習指導者と教員による状況確認)、実習指導者作成の到達度評価表、経験表コメント、学生作成の臨床体験報告書等を元に、学内で臨床評価実習Ⅱ単位認定会議を開催し評定する。			

3 学年 授業科目要綱

令和7年度 3学年・授業科目・単位数・担当者一覧

3年生

分野 指定規則単位		科 目		単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基礎	身 体 哲 学 概 論		1	15	1						宮本 省三	専任講師	
		脳 科 学 概 論		1	15		1					宮本 省三	専任講師	
		ス ポ ー ツ 科 学 概 論		1	15	1						八坂 一彦・他	専任講師・他	
		医 学 用 語		1	15	1						小野 美紀	専任講師	
		医 学 英 語		1	15		1					小野 美紀	専任講師	
		情 報 科 学 演 習		1	30	1						大畑 剛・他	非常勤講師	
	人間と生活	発 達 心 理 学		1	15		1					宮本 省三・他	専任講師・他	
		運 動 心 理 学		1	15	1						宮本 省三・他	専任講師・他	
		人 間 発 達 学		1	15	1						山口 一郎	非常勤講師	
		日 常 生 活 動 作 概 論		1	15		1					小野 美紀・他	専任講師・他	
		保 健 体 育		1	30	1						刈谷 三郎	非常勤講師	
	社会の理解	社 会 福 祉 学		1	15	1						稲垣 佳代	非常勤講師	
		コミュニケーション概論		1	15	1						小野 美紀・他	専任講師・他	
		社 会 活 動 概 論		1	15	1						園田 義顕・他	専任講師・他	
計	14			14	240	7	7	0	0	0	0			
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解 剖 学 I	1	12	30		1					高橋 弘	非常勤講師
			解 剖 学 II	1		30		1					高橋 弘	非常勤講師
			解 剖 学 III	1		30	1						田中 健二郎	非常勤講師
			解 剖 学 IV	1		30	1						田中 健二郎	非常勤講師
		生理学	生 理 学 I	1		30	1						有川 幹彦	非常勤講師
			生 理 学 II	1		30		1					村田 芳博	非常勤講師
			生 理 学 III	1		30			1				大塚 智子	非常勤講師
			生 理 学 IV	1		30				1			有川 幹彦	非常勤講師
		運動学	運 動 学 I	1		30	1						園田 義顕	専任講師
			運 動 学 II	1		30		1					宮本 省三	専任講師
			運 動 学 III	1		30			1				宮本 省三	専任講師
			運 動 学 IV	1		30			1				園田 義顕	専任講師
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病 理 学 概 論	1	14	30	1						大原 栄二・他	非常勤講師	
		リハビリテーション内科学	1		30			1				柿沼 由彦・他	専任講師・他	
		リハビリテーション整形外科	1		30			1				沖田 学・他	非常勤講師	
		リハビリテーション神経学	1		45				1			園田 義顕・田淵 充勇	専任講師	
		リハビリテーション栄養・薬理学	1		15			1				小野 美紀・他	専任講師・他	
		救命救急医学・リスク管理学	1		15				1			池田 武史・他	非常勤講師	
		臨床データ診断学	1		15						1	八坂 一彦	専任講師	
		精 神 医 学	1		30				1			川淵 忠義・他	非常勤講師	
		老 年 病 学	1		30				1			小野 美紀・他	専任講師	
		運 動 発 達 学	1		15	1						宮本 省三	専任講師	
		解 剖 学 演 習	1		30	1						田淵 充勇	専任講師	
		生 理 学 演 習	1		30			1				村田 芳博	非常勤講師	
		解 剖 生 理 学 演 習	1		30	1						宮本 省三・高橋 弘	専任講師	
		運 動 学 演 習	1		30				1			田淵 充勇・他	専任講師・他	
	保健医療福祉とリハビリの理念	リハビリテーション概論	1	4	30	1						八坂 一彦	専任講師	
		リハビリテーション医学	1		30		1					小野 美紀	専任講師	
		社 会 保 障 論	1		15					1		小野 美紀	専任講師	
		チ ャーム医療概論	1		15	1						八坂 一彦・他	専任講師・他	
計	30			30	825	8	7	7	6	0	2			

分野 指定規則単位		科 目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門分野	基礎理学療法学	理 学 療 法 評 価 概 論	1	6	30	1					宮本 省三	専任講師		
		運 動 療 法 概 論	1		45		1				田淵 充勇	専任講師		
		物 理 療 法 概 論	1		30		1				八坂 一彦	専任講師		
		理学療法基礎セミナーⅠ	1		30			1			宮本 省三・他	専任講師		
		理学療法基礎セミナーⅡ	1		45					1	宮本 省三・他	専任講師		
		理学療法基礎セミナーⅢ	1		45					1	宮本 省三・他	専任講師		
	理学療法評価学	理 学 療 法 評 価 学Ⅰ	1	6	30		1				田淵 充勇	専任講師		
		理 学 療 法 評 価 学Ⅱ	1		45		1				宮本 省三	専任講師		
		理 学 療 法 評 価 学Ⅲ	1		30		1				園田 義顕	専任講師		
		理 学 療 法 評 価 学Ⅳ	1		30			1			園田 義顕	専任講師		
		理 学 療 法 評 価 学Ⅴ	1		30				1		田淵 充勇	専任講師		
		理学療法評価学演習	1		30				1		宮本 省三・他	専任講師		
	理学療法管理・教育学	理 学 療 法 管 理 学	1	2	15						1	大畑 剛・他	非常勤講師	
		理 学 療 法 教 育 学	1		15						1	小野 美紀・八坂 一彦	専任講師	
	理学療法治療学	関節機能障害理学療法学	1	20	30			1				宮内 博雄・藤田 昭宏	非常勤講師	
		一 般 外 傷 理 学 療 法 学	1		30			1				八坂 一彦	専任講師	
		ス ポ ー ツ 外 傷 理 学 療 法 学	1		30				1				大久保 吏司・古川 裕之	非常勤講師
		障 害 者 ス ポ ー ツ 学	1		30		1					八坂 一彦・他	専任講師・他	
		末梢神経障害理学療法学	1		30				1			田淵 充勇	専任講師	
		脊 髄 障 害 理 学 療 法 学	1		30				1			高橋 昭彦・他	非常勤講師	
		脳 障 害 理 学 療 法 学Ⅰ	1		30			1				宮本 省三	専任講師	
		脳 障 害 理 学 療 法 学Ⅱ	1		30				1			宮本 省三	専任講師	
		脳 障 害 理 学 療 法 学Ⅲ	1		30				1			園田 義顕	専任講師	
		小 児 理 学 療 法 学	1		30				1			宮本 謙三	非常勤講師	
		呼 吸 器 障 害 理 学 療 法 学	1		30			1				宅間 豊	非常勤講師	
		循 環 器 障 害 理 学 療 法 学	1		30			1				前田 秀博	非常勤講師	
		物 理 療 法 学	1		30			1				八坂 一彦	専任講師	
		義 肢 学	1		30				1			鶴見 隆正	非常勤講師	
		装 具 学	1		30			1				岡上 正弘	非常勤講師	
		日 常 生 活 動 作 学	1		30			1				小野 美紀	専任講師	
		運 動 療 法 技 術 学	1		30				1			八坂 一彦	専任講師	
		認知神経リハビリテーション学	1		30				1			宮本 省三・他	専任講師	
		理学療法治療学セミナー	1		45						1	宮本 省三・他	専任講師	
		理 学 療 法 研 究 法	1		30						1	宮本 省三・他	専任講師	
	地域理学療法学	地域リハビリテーション学Ⅰ	1	3	30			1				佐藤 健三	非常勤講師	
		地域リハビリテーション学Ⅱ	1		30			1				小野 美紀	専任講師	
生 活 環 境 論		1	30					1			小野 美紀	専任講師		
臨床実習	臨 床 見 学 実 習	1	20	45		1					宮本 省三	専任講師		
	臨 床 評 価 実 習Ⅰ	1		45			1				宮本 省三	専任講師		
	臨 床 評 価 実 習Ⅱ	2		90				2			宮本 省三	専任講師		
	総 合 臨 床 実 習	15		675					15		宮本 省三	専任講師		
	地 域 見 学 実 習	1		45						1	宮本 省三	専任講師		
計	57		57	2055	1	7	12	15	15	7				
合計	101		101	3120	16	21	19	21	15	9				
3120時間					37単位		40単位		24単位					
					945時間		1230時間		945時間					
					101単位 3120時間									

専門基礎分野

目次

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

臨床データ診断学・・・・・・ 3－①

保健医療福祉とリハビリテーションの理念

社会保障論・・・・・・ 3－②

科目名	臨床データ診断学	学年・学期	3学年・通 年																		
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1単位・15時間																		
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。																				
[授業内容(概要)]																					
この授業では、各種検査データを読み取れるようになるために、基本的な解剖生理学から病態生理学に係る事項も学びます。そして、病態の理解やリスク管理、治療プログラム立案など、理学療法に応用できるように取り組みます。																					
[授業の到達目標]																					
1. 各種検査データを読み取れるようになる。 2. 各種検査データから、病態の理解やリスク管理、治療プログラム立案など、理学療法に応用できるようになる																					
[授業計画]																					
<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>生化学検査結果の診方</td></tr><tr><td>2</td><td>心電図の基礎</td></tr><tr><td>3</td><td>心電図（不整脈）の診方</td></tr><tr><td>4</td><td>心電図（不整脈）の診方</td></tr><tr><td>5</td><td>心電図（不整脈）の診方</td></tr><tr><td>6</td><td>血ガス結果の診方</td></tr><tr><td>7</td><td>フローボリューム曲線の診方</td></tr><tr><td>8</td><td>胸部レントゲンの診方</td></tr></table>				回	内容	1	生化学検査結果の診方	2	心電図の基礎	3	心電図（不整脈）の診方	4	心電図（不整脈）の診方	5	心電図（不整脈）の診方	6	血ガス結果の診方	7	フローボリューム曲線の診方	8	胸部レントゲンの診方
回	内容																				
1	生化学検査結果の診方																				
2	心電図の基礎																				
3	心電図（不整脈）の診方																				
4	心電図（不整脈）の診方																				
5	心電図（不整脈）の診方																				
6	血ガス結果の診方																				
7	フローボリューム曲線の診方																				
8	胸部レントゲンの診方																				
[教科書]																					
※プリント資料を適宜配布																					
[参考図書]																					
病気がみえるシリーズ																					
[授業方法]																					
講義 演習																					
[成績評価方法]																					
1. 出席状況、授業、演習態度（10点） 2. レポート（90点）の合計とする。																					

科目名	社 会 保 障 論	学年・学期	3学年・後 期
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
リハビリテーションの歴史的変遷、リハビリテーションをとりまく法制度および関連する法制度を理解する。			
[授業内容(概要)]			
1. リハビリテーションの歴史的変遷を理解する 2. 理学療法士及び作業療法士法を理解する 3. リハビリテーションに関連する法制度を理解する			
[授業内容]			
回	内容		
1	障害者自立生活運動、ノーマライゼーション		
2	ICD、ICIDH、ICF		
3	理学療法士及び作業療法士法		
4	クリニカルパス、個人情報保護法		
5	老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法		
6	障害者基本法、身体障害者福祉法		
7	知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律		
8	テスト		
[教科書]			
配布資料			
[参考図書]			
医療六法（中央法規） 医事関連法の完全知識（医学通信社）			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
出席状況 5%、小テスト 25%、テスト 70%の合計 100%として評定する			

専門分野

基礎理学療法学

理学療法基礎セミナーⅡ . . . 3－③

理学療法基礎セミナーⅢ . . . 3－④

理学療法管理学

理学療法管理学 . . . 3－⑤

理学療法教育学 . . . 3－⑥

理学療法治療学

理学療法治療学セミナー . . . 3－⑦

理学療法研究法 . . . 3－⑧

臨床実習

総合臨床実習 . . . 3－⑨

地域見学実習 . . . 3－⑩

科目名	理学療法基礎セミナーⅡ	学年・学期	3学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
理学療法士国家試験に対応するために、これまでに履修した知識・技術【理学療法専門基礎分野〔基礎医学・臨床医学〕および理学療法専門分野】について理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 理学療法専門基礎分野および理学療法専門分野の出題内容を理解する 2. 講義、演習、グループワークを実施し、知識の再確認および補充する 3. 学習計画を立案し到達目標を設定する 4. 学習習慣の徹底と学習方法の確立をはかる 5. 教員による定期的な面接および進捗状況の確認する			
[授業計画]			
1. 理学療法専門基礎分野(解剖学) 2. 理学療法専門基礎分野(生理学) 3. 理学療法専門基礎分野(運動学) 4. 理学療法専門基礎分野(病理学) 5. 理学療法専門基礎分野(臨床医学・骨関節疾患) 6. 理学療法専門基礎分野(臨床医学・中枢神経疾患) 7. 理学療法専門基礎分野(臨床医学・末梢神経疾患他) 8. 理学療法専門基礎分野(臨床医学・内部障害) 9. 理学療法専門基礎分野(臨床医学・臨床心理学) 10. 理学療法専門基礎分野(臨床医学・精神医学) 11. 理学療法専門分野(基礎理学療法学・理学療法評価学①) 12. 理学療法専門分野(基礎理学療法学・理学療法評価学②) 13. 理学療法専門分野(基礎理学療法学・理学療法評価学③) 14. 理学療法専門分野(疾患別理学療法治療学・運動療法学) 15. 理学療法専門分野(疾患別理学療法治療学・物理療法) 16. 理学療法専門分野(疾患別理学療法治療学・義肢装具歩行補助具他) 17. 理学療法専門分野(疾患別理学療法治療学・骨関節疾患) 18. 理学療法専門分野(疾患別理学療法治療学・中枢神経疾患) 19. 理学療法専門分野(疾患別理学療法治療学・末梢神経疾患他) 20. 理学療法専門分野(疾患別理学療法治療学・内部障害他) 21～23. 演習、グループワーク			
[教科書] 教科書指定なし			
[参考図書] 国家試験関連書籍			
[授業方法]			
講義 演習 グループワーク			
[成績評価方法]			
出席状況 40%と課題提出 60%の合計 100%で評定する			

科目名	理学療法基礎セミナーⅢ	学年・学期	3学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
理学療法士国家試験に対応するために、これまでに履修した知識・技術【理学療法専門基礎分野〔基礎医学・臨床医学〕および理学療法専門分野】について、各種試験を通して理解する。			
[授業の到達目標]			
1. 理学療法専門基礎分野〔基礎医学・臨床医学〕を理解する			
2. 理学療法専門分野を理解する			
3. 理学療法士国家試験学内模擬試験の合格ラインをクリアする			
[授業計画]			
1・2. 第1回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
3・4. 第2回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
5・6. 第3回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
7・8. 第4回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
9・10. 第5回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
11・12. 第6回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
13・14. 第7回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
15・16. 第8回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
17・18. 第9回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
19・20. 第10回理学療法士国家試験模擬試験・結果確認および解説			
21～23. 全体フィードバック・演習・グループワーク			
[教科書]			
教科書指定なし			
[参考図書]			
国家試験関連書籍			
[授業方法]			
試験実施→結果確認→解説			
[成績評価方法]			
出席状況 30%と課題提出 70%の合計 100%で評定する			

科目名	理学療法管理学	学年・学期	3学年・後 期
担当講師	大 畑 剛・他	単位・時間数	1 単位・1 5時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
理学療法士の業務内容や組織構造を理解し、臨床場面でのリスク管理や管理業務を知り、日々の診療業務を安全かつ効率的に行える人材を育成することを目標とする。			
[授業の到達目標]			
1 理学療法士の業務内容や組織構造を理解する			
2 理学療法士の職場管理や業務マネジメントについて理解する			
3 保険制度、教育研究、在宅部門等におけるマネジメントについて理解する			
[授業計画]			
1 総論・職業倫理と組織運営マネジメント			
・組織とは ・病院組織と管理 ・医療安全管理への取り組み			
・リスクマネジメントの実際			
2 理学療法士の職場管理			
・ヒトの管理 ・人材育成 ・モノ（設備）の管理 ・情報管理			
3 理学療法業務のマネジメント			
・理学療法業務 ・診療録 ・処方せん			
・理学療法記録 ・説明と同意、計画書 ・チーム医療			
4 保険制度を取り巻く諸制度とマネジメント			
・診療報酬制度 ・介護報酬制度 ・その他の制度			
・リハビリテーションを取り巻く社会情勢			
5 教育研究のマネジメント			
・理学療法教育（卒前教育、卒後教育） ・臨床実習指導者制度			
・研究活動について			
6 求められている理学療法士になるために			
・コミュニケーション能力の育成 ・就職活動について			
7 在宅部門のマネジメント（訪問リハ） 大畑 千加恵			
・介護保険下におけるマネジメント ・在宅部門での職場管理			
・生活期における理学療法マネジメント			
8 理学療法士のキャリアデザイン			
[教科書]			
資料配付			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
出席状況 10%とレポート課題 90%の合計を評定とする			

科目名	理学療法教育学	学年・学期	3学年・後 期
担当講師	小野 美紀・八坂 一彦	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
医療専門職である理学療法士の卒業までの教育内容および理学療法士を取り巻く現状について理解する。また、卒前に学んだ知識と技術を、臨床でより良く生かすための臨床能力とプロフェッショナルリズムについて理解を深め、資格取得後の卒後教育(キャリア教育)や生涯学習システムについて学ぶ。			
[授業の到達目標]			
1. 理学療法教育の変遷を理解する 2. 理学療法学モデル・コア・カリキュラムについて理解する 3. 卒後教育(キャリア教育)について理解する 4. 日本理学療法士協会における生涯学習システムについて理解する			
[授業計画]			
【卒前教育】 担当・小野			
1. 理学療法士教育の変遷および理学療法士を取り巻く現状 2. 理学療法学モデル・コア・カリキュラム 3. 卒前教育における臨床実習の位置づけ 4. 卒前教育の実際と振り返り			
【卒後教育】 担当・八坂			
5. 資格取得後の卒後教育(キャリア教育)① 6. 資格取得後の卒後教育(キャリア教育)② 7. 日本理学療法士協会における生涯学習システム① 8. 日本理学療法士協会における生涯学習システム②			
[教科書]			
教科書指定なし 資料配布			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
出席状況 20%とレポート 80%で全体 100%として評定する			

科目名	理学療法治療学セミナー	学年・学期	3学年・通 年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
前期は、総合臨床実習に備え、理学療法治療技術の基本について理解し実践する。後期は、様々な分野で活躍する理学療法士の専門性や職域、キャリアについて、理解し、理学療法の最新の知見について知識を深める。			
[授業の到達目標]			
1. 総合臨床実習に備え、理学療法治療技術の基本について理解し実践できる 2. 理学療法士の専門性について理解する 3. 理学療法の最新の知見について理解を深める			
[授業計画]			
1. 理学療法評価および治療技術の実際 2. 理学療法評価および治療技術の実際 3. 理学療法評価および治療技術の実際 4. 理学療法評価および治療技術の実際 5. 理学療法評価および治療技術の実際 6. 心理的側面から理解する理学療法治療の実際 7. 心理的側面から理解する理学療法治療の実際 8. 心理的側面から理解する理学療法治療の実際と最新の知見 9. 循環器障害に対する理学療法治療の実際 10. 循環器障害に対する理学療法治療の実際 11. 循環器障害に対する理学療法治療の実際と最新の知見 12. 呼吸器障害に対する理学療法治療の実際 13. 呼吸器障害に対する理学療法治療の実際 14. 呼吸器障害に対する理学療法治療の実際と最新の知見 15.がんリハビリテーションの実際 16.がんリハビリテーションの実際と最新の知見 17.リンパ浮腫に対する複合的治療 18.リンパ浮腫に対する複合的治療と最新の知見 19.小児リハビリテーション 20.小児リハビリテーションと最新の知見 21.画像から読み解く理学療法評価と治療 22.画像から読み解く理学療法評価と治療と最新の知見 23.理学療法士に必要な知識と技術とは			
[教科書] 授業内容に応じ、各担当教官より指定あり			
[参考図書]			
[授業方法] 講義 実技 演習			
[成績評価方法]			
出席状況 50%と課題レポート 50%の合計を 100%として評定する			

科目名	理学療法研究法	学年・学期	3学年・通 年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
理学療法士は臨床にて患者に対して理学療法を実施することが主体となるが、医療の一分野を占める学問の発展には研究を通して全体的なレベル上昇と科学的な根拠に則った裏付けが必要となる。専門職を養成する学校教育においても、臨床面の教育、指導と併せ研究に対し、その重要性和意義とを理解させ認識させる。			
[授業の到達目標]			
1. 理学療法研究法では、研究の重要性和意義について理解する。 2. 研究の実際では、理学療法全般における文献研究または総合臨床実習の経験を通して、各自が研究テーマを設定し、研究計画立案、関係資料作成およびプレゼンテーション能力を身につける。 3. 研究テーマに沿った文献を適切に読み解く能力を身につける。			
[授業計画]			
1. 理学療法研究法総論 2. 理学療法研究法各論 3. 研究テーマ選定(文研研究または総合臨床実習の経験を通して着目した内容) 4. 文献の種類と引用方法 5. 理学療法研究法取り組み手順 6. テーマ設定 7. テーマ設定と文献 8・9. 指導教官別指導(資料作成／添削指導／資料完成) 10. 指導教官別指導(プレゼンテーション用資料案作成) 11・12. 指導教官別指導(プレゼンテーション用資料作成／添削指導) 13. 指導教官別指導(プレゼンテーション用資料完成) 14・15. 理学療法研究法プレゼンテーション・質疑			
[教科書]			
教科書指定なし 各自テーマに応じ、必要な資料			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 演習 指導教官別指導 資料作成 プレゼンテーション・質疑			
[成績評価方法]			
出席状況、理学療法研究資料作成過程、作成内容、プレゼンテーション準備・実際、質疑方法など全体を含めて単位認定会議を開催し評定する			

科目名	総合臨床実習	学年・学期	3学年・前期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	15単位・675時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
1 学年・2 学年で習得した基礎・専門基礎・専門分野の知識や2 学年での臨床評価実習Ⅰ、臨床評価実習Ⅱの経験をふまえ、指定実習医療施設において、臨床実習指導者の下で、理学療法業務を実践できるようにする。 知識や技術の習得は元より、理学療法士として必要な倫理観や他職種連携などチーム医療の重要性について学び、幅広い経験することで、能動的な取り組みができることを目標とする			
[授業の到達目標]			
1. 総合臨床実習を通じて、医療人、社会人として人間力を高める 2. 基本的な理学療法について学び、臨床的な思考を養う 3. 患者を通して、リスク管理を理解し、理学療法評価・治療を実践する 4. 他職種連携について理解を深め、良好な人間関係を築くことができる 5. 理学療法の記録や報告が適切にできる 6. 実習に必要な知識や課題について能動的に取り組み、実習に反映することができる			
[授業計画]			
・総合臨床実習前評価 基礎・専門基礎・専門分野の知識確認テスト(CBT) 臨床技能能力試験(OSCE)→結果のフィードバック・指導 ・実習開始前に学内でのオリエンテーション ・指定実習医療施設での診療参加型実習 [1施設8週間を2施設で実施する(1日9時間1週間45時間1施設360時間×2施設)] 施設でのオリエンテーション 患者の障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践 治療目標及び治療計画の立案 治療実践並びに治療効果判定 ・提出書類の作成 ・学内での実習終了報告会 ・臨床実習終了後評価 基礎・専門基礎・専門分野の知識確認テスト(CBT) 臨床技能能力試験(OSCE)→結果のフィードバック・指導 ・総合臨床実習終了フィードバック			
[成績評価方法]			
臨床実習前後評価並びに総合臨床実習経験表・総合臨床実習到達度評価表、出席状況、実習内容状況(臨床実習指導者と教員による状況確認)、実習終了報告会等を元に、学内で総合臨床実習単位認定会議を開催し単位認定とする。			

科目名	地 域 見 学 実 習	学年・学期	3 学年・通年
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1 単位・45 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業内容(概要)]			
地域の高齢者および在宅療養者の健康保持増進を促進する地域包括支援システムについて理解する。各専門職や社会資源サービスと連携する枠組みや職種の役割について理解する。 また、介護保険システムについて理解し、利用者の生活状況や各種サービスの実際について、理解する。			
[授業の到達目標]			
1．地域の高齢者や在宅療養者の生活の理解を深める。 2．地域包括ケアシステムの理解を深める。 3．介護保険システムの理解を深める。			
[授業計画]			
事前に学内でのオリエンテーション 1．指定施設における見学実習（1 日） 2．指定施設における見学実習（1 日） 3．指定施設における見学実習（1 日） 4．指定施設における見学実習（1 日） 5．指定施設における見学実習（1 日） 実習終了フィードバック			
[授業方法]			
指定施設にて、担当理学療法士指導の下、合計 5 日間の見学実習			
[成績評価方法]			
出席状況、実習内容状況(実習指導者と教員による状況確認)、 指導者作成の見学実習評価チャート、学生作成の地域見学実習報告書を元に、 学内で臨床見学実習単位認定会議を開催し評定する。			

高知医療学院 理学療法学科

〒781-0270 高知市長浜6012-10

TEL 088-842-0412

FAX 088-841-1783

<https://www.kochi-iryogakuin.com>
